RELAY COLUMN

リレーコラム

酪農生産構造の改革に向けた経営政策、税制、農地制度の

結論から述べることにする。農業構造を改革し、自給率の向上を目指すには、①品目横断的経営安定対策は、飼料作物や地域特産作物も対象とした共通施策とすること、②担い手政策は、コントラクターなど生産構造の変化を促す経営体の育成に重点を置くこと、③農地制度は、市町村単位ではなく複数集落など水系単位に法人格を持った利用調整組織を設立し、利用権の一括取得を認めること――が必要だと考える。

まず、現場の事例から問題点を明らかにしてみよう。筆者がコンサルタントをしている農業経営の一つに、酪農家が協同して設立したTMR(完全混合飼料)センターがある。コントラクター機能も併せ持っており、参加した酪農家が提供する農地において共同でデントコーンを栽培して調製したサイレージを基本に、豆腐カスなどの食品残渣と配合飼料を混合してTMR飼料を製造し、酪農家に供給している。輸入飼料の値上がりが続く中で、酪農経営のコストを下げるのが目的だが、それだけではない。酪農経営が、大規模化、多頭化するなかで、搾乳・飼養管理能力を向上するために、自給飼料の部門を共同化、外部化する試みでもある。

このコントラクター兼TMRセンターは、有限会社として設立、特定農業法人の資格を取得した。内部留保による経営体力の向上のため、農用地利用集積準備金制度を活用するためだ。設立第１期の平成18年度については、ほぼ予想通りの決算で黒字となったが、農用地利用集積準備金の活用によって、法人税等の負担は住民税均等割のみとなった。しかし、農用地利用集積準備金の活用は、設立第１期が最初で最後となる。

平成19年度税制改正によって、農業経営基盤強化準備金が創設され、農用地利用集積準備金が廃止されたからだ。農水省の試算によれば、一般的な特定農業法人であれば、農業経営基盤強化準備金の方が積立限度額が大きくなってむしろ有利であるという。農用地利用集積準備金では、農業収入の９％が積立限度額であったが、農業経営基盤強化準備金は、品目横断的経営安定対策や産地づくり対策などの交付金と同額を準備金として積むことができる。確かに、一般的な特定農業法人の平均的な売上高の９％よりも、交付金の額の方が多いかもしれない。このため、水田農業で麦・大豆を栽培する特定農業法人であれば、農業経営基盤強化準備金で代替できる。しかし、水田転作ではなく、畑地で粗飼料生産を行なうコントラクターの特定農業法人は、産地づくり交付金も品目横断的経営安定対策交付金の黄ゲタ(毎年の生産量・品質に基づく支払)も緑ゲタ(過去の生産実績に基づく支払)も入らないため、農業経営基盤強化準備金は１円も積むことができない。

「品目横断的」と言っておきながら、ごく一部の作目だけを対象としているから問題が起こる。酪農には作目別の酪農対策があり、サトウキビや原料用甘薯(かんしょ)にも地域特産としての対策があるから、品目横断的経営安定対策に入れる必要はないという考えがあるのは承知している。しかし、コントラクターの育成も重要な農業政策の一つであるはずだが、税制上の優遇措置の対象から外れたことにより、「コントラクターは育成すべき担い手の対象ではない」といった誤ったメッセージを現場に送ることになりかねない。

本来、４ha以上のコントラクター組織の認定農業者(生産法人)、サトウキビや原料用甘薯を栽培する認定農業者なども、品目横断的経営安定対策の対象とすべきではないか。従来の品目

見直しを

森　剛一（もり たけかず）
85年慶應義塾大学経済学部卒、全国農協中央会（JA全中）入会。91年ＪＡ全中退職後、現在はアグリビジネス・ソリューションズ（株）代表取締役、森税務会計事務所所長に就任し、税理士、経営コンサルタントとして活動中。主な著書に「よくわかる酪農の財務・税務のノウハウ」（酪農総合研究所）などがある。

RELAY COLUMN

別対策を廃止できなければ、これらと２階建てとする方法もある。交付金さえあればよいということにはならない。他の作目とのイコールフッティングとして税制上の特例措置も不可欠であり、さらには、国の言う「担い手」として自分たちが位置づけられているという誇りも重要なことである。

そこで、提案であるが、デントコーンやホールクロップ稲について、品目横断的経営安定対策による「ゲタ」（生産条件不利補正交付金）を創設し、安価な粗飼料生産を実現する仕組みづくりをしてはどうか。品目横断的経営安定対策の交付金として農業経営基盤強化準備金の設定対象となるので、内部留保の促進により、その主体となるコントラクター組織の育成にも繋がる。ホールクロップ稲には、現行では、地権者（名目上は稲の作付者）に対して交付金が交付されることもあり、その額は収量に関係ないため、捨て作りを助長している。こうした無駄な交付金を止めて財源に当てればよい。コントラクター組織に利用権設定（又は特定作業受託）をすれば、地権者は転作目標を達成したとして取り扱い、小作料（又は一定額の精算金）を受け取る仕組みにする。コントラクター組織は、収量が多い方が飼料のコストも下がり、収穫作業などの能率も上がる。必要であれば田植えや肥培管理作業は、稲作の担い手組織などに委託することになり、真の意味での「耕畜連携」になる。酪農家が経営のなかで片手間に自給飼料を生産する時代は終わった。飼料生産専門の仕組みと主体（継続企業）づくりが不可欠である。

最後に、ホールクロップ稲などの生産を継続するためには、農用地利用調整が不可欠である。ホールクロップ稲栽培の地権者へのバラマキを止めれば、「金の切れ目が縁の切れ目」、生産自体が衰退するおそれがある。水田利用のあり方は地域で話し合って決める。そのうえで、稲作主体の集落営農法人や飼料作コントラクター法人などの生産主体に一括して利用権を託す方法が必要である。

これまでのJAや県・市町村公社による農地保有合理化法人の「活動は低調」であり、JAによる農地保有合理化事業の創設に深くかかわった筆者としては残念なことであるが、その取組みが成功したとは言い難い。しかし、全市町村に新たな面的集積組織を設置すれば問題が解消するとは思えない。従来の合理化事業は、「地権者からの申出があってはじめて対応する仕組」になっていると農水省も総括しているではないか。「農地所有者等への働きかけ」をした程度で状況が変わる話ではない。問題は、利用調整の「主体」ではなく「手法」にある。地権者から申出のあった農地を担い手にあっせんする手法ではなく、地権者の合意形成によって地域の農地の利用権を一括して集約する手法を推進する制度の導入が必要である。

幸い、今回の政策的な集落営農の推進によって、集落等地域単位での面的利用集積の仕組みに芽が出てきたところだ。従来の農用地利用改善団体は、法人格を持っていなかったため、農地の利用権を取得することができなかったが、これに法人格を与えて、農用地利用改善法人（仮称）となることを認める。あるいは、土地改良区の制度を活用し、これに新たな役割を付与することも考えられる。これらの法人が、地域内の利用権を一括して取得することができるようにし、面的に利用集積した農地を担い手に貸し付ける仕組みが必要ではないだろうか。

SPECIAL REPORT

わが国の乳製品市況動向と国際乳製品相場高騰の背景

乳製品の国際相場が昨年秋以降高騰しており、その余波がわが国のバター、脱脂粉乳の市況や需給にも表れ始めている。乳製品の国際相場が値上がりしているのは、ＢＲＩＣｓ（ブリックス）と呼ばれるブラジル（Ｂ）、ロシア（Ｒ）、インド（Ｉ）、中国（Ｃ）が経済成長に伴って、乳製品需要が急増していることと、中東産油国やアジア諸国などの安定的需要に支えられているものだ。今号ではわが国のバター、脱脂粉乳の市況や需給と、国際乳製品相場高騰の背景などを解説する。

6月の脱粉高は国際相場高騰も一因

農水省が毎月公表している牛乳乳製品関係の統計のひとつに「主要乳製品大口需要者向け価格」がある。

この統計は、乳業メーカーなどが菓子・パン類、飲料、一般加工食品の製造会社や、ホテル・レストランなどの大口需要者に、バターや脱脂粉乳を業務用として販売している価格を調査したもの。

それによると、（表１）のように、６月と７月の動きに変化があった。バター、脱脂粉乳ともそれまでの数ヵ月間に比べて小幅だが値上がりがみられ、特に６月の脱脂粉乳価格は前月比22円高となった。その理由は脱脂粉乳の在庫減（表２）とも関係している。

脱脂粉乳在庫は６月と７月で合計して9,400㌧減少した。脱脂粉乳の月平均需要量は１万5，600㌧だから、この２ヵ月間で月平均需要量よりさらに６割も

（表1）業務用バター、脱脂粉乳の大口需要者価格

（単位：円）

		バター（１kg）	脱脂粉乳(25kg)
06年	４月	947	13,062
	５月	947	13,047
	６月	948	13,005
	７月	950	13,020
	８月	943	13,013
	９月	943	13,010
	10月	943	13,002
	11月	944	13,001
	12月	944	13,007
07年	１月	944	13,004
	２月	944	13,019
	３月	944	13,019
	４月	944	13,019
	５月	944	13,019
	６月	945	13,041
	７月	946	13,049

農水省調べ。価格は消費税を含む。

（表2）バター、脱脂粉乳の推定期末在庫量

（単位：千㌧）

		バター	脱脂粉乳
06年	４月	31.6	76.9
	５月	32.7	79.7
	６月	32.4	78.8
	７月	32.0	77.9
	８月	31.8	75.5
	９月	29.3	70.6
	10月	26.7	66.9
	11月	23.9	63.2
	12月	21.5	64.3
07年	１月	24.1	68.8
	２月	23.6	69.2
	３月	23.2	68.3
	４月	23.1	68.9
	５月	23.8	69.1
	６月	24.4	65.3
	７月	23.7	59.7

農水省牛乳乳製品課調べ。

の需要増となったわけで、これが６月、７月の価格高になったともいえる。

また、７月の脱脂粉乳在庫は５万9,700㌧で、６万㌧割れとなったが、これは01年12月末の５万9,279㌧以来５年７ヵ月ぶりの水準。農水省では、「６万㌧割れは、生産者や乳業メーカーの努力による脱脂粉乳在庫削減対策の成果のほかに、海外乳製品市況の先高感の中で、ユーザー（実需者）が国産脱脂粉乳を手元に確保する動きが反映されているためではないか」として、国際相場高もその一因にあげている。

実際、サプライヤー（供給業者）の中には、ユーザーが国際相場の高騰に対して、５月以降輸入品から国産脱脂粉乳に切り替える動きが活発化したことを受けて、国産脱脂粉乳価格の安値を是正し始めているところもある。

こうした国際乳製品相場を考慮した業務用乳製品の売買は加工原料乳不足払い法が施行された66年度以来、初めての動きだ。このことは、サプライヤーもユーザーも乳製品のマーケットがグローバル化しているとの認識が醸成されてきていることの表れといえる。

前記のように、７月末の脱脂粉乳在庫は月平均需要量の３・８ヵ月分と多い。しかし、生乳の減産型計画生産もあって、脱脂粉乳の生産量は06年４月から減少基調で推移しているため、今年はクリスマスなど年末需要に向けて、９、10月には在庫が急減、年内には適正在庫水準の２ヵ月に達するとの見通しもある。

「わが国の業務用乳製品市場は底が浅い」との言葉は30年以上も前から語り継がれてきているところだが、07年１年間だけみてもこのような需給緩和から需給均衡に様変わりする状況で、08年にはひっ迫という事態を迎えることになるかもしれない。

在庫が多いのはバターも同様で、このため、バターの大口価格はまだ動きが鈍い。しかし、農畜産業振興機構が輸入するカレントアクセス（義務輸入。以下「ＣＡ」）のバター価格は国際相場の高騰で値上がりしており、先行きの売り渡し価格は上昇する可能性が大きい。

バター在庫は直近の７月が２万3,700㌧で、月平均需要量である7,500㌧の３・２ヵ月分に当たる。このうち主要14者の在庫は２万1,000㌧で、６月末に比べ640㌧減、前年同月比では9,000㌧減と大幅だ。脱脂粉乳同様、06年４月からの生産減の一方で、需要が堅調なことから、着実に需給が改善している。

業務用のタイプ別ではバラ物（20㌔包装）が１万4,300㌧で、６月末に比べて1,000㌧減、プリント物（450㌘など小包装）、シートタイプ（パン、ケーキ向け特殊用途）などは5,700㌧で500㌧増となっている。

乳業メーカーは、需要がおう盛で、不足気味のプリント物などを年末に向けて優先的に生産し、在庫のため込みに必死だが、思ったように積み増しされていない。プリント物の生産に重点を置くため、バラ物の生産量は減少しているが、これはＣＡバターで対応している。しかし、バラ物の在庫は減少速度を早め、出荷調整をしているほどで、９月から前年実績の２割削減を打ち出したメーカーもある。年末まで国産バター在庫が増える可能性はないし、来年の積み増しも微妙だ。

06年度分のＣＡバターの残量は８月末で2,200㌧となったが、年内の消化は確実だ。07年度分としてわが国が輸入するＣＡはバターで約6,600㌧、デーリースプレッドで2,000㌧程度だが、国際乳製品相場の高騰の一方で、輸入数量の確保という課題も生じている。

■ ＥＵの輸出補助金、全乳製品がゼロ

６月14日に世界の乳製品関係者を驚かすニュースが駆けめぐった。ＥＵは「15日からバター、チーズの輸出補助金をゼロにする」というもので、これでＥＵの乳製品輸出に関わる補助金は５品全部がゼロとなった。理由は乳製品の国際相場が高水準のためである。ＥＵの乳製品輸出補助金の最近の推移は（表３）の通りだが、最初にゼロとなったのは06年６月の脱脂粉乳で、次にゼロとなったのは07年１月の全脂粉乳と練乳。バターの輸出補助金は06年11月以降毎月カットされていたが、６月のカットは100㌔当たり50ユーロ（約8,000円。１ユーロ160円換算）がいっぺんに全額カットとなり、チーズも25ユーロ（約4,000円）全額カットという措置となった。

（表3）ＥＵの乳製品輸出補助金の推移　（ユーロ／100㎏）

	脱脂粉乳	全脂粉乳	バター	チーズ	練　乳
06年　４月	5.00	54.00	99.50	56.30	5.895
５月	3.00	54.00	99.50	56.30	5.895
６月	0	54.00	99.50	51.23	5.895
７月	0	54.00	99.50	51.23	5.895
８月	0	54.00	99.50	51.23	5.895
９月	0	54.00	99.50	51.23	5.895
10月	0	52.00	99.50	50.00	5.895
11月	0	31.00	98.50	43.50	3.52
12月	0	21.00	97.00	43.50	2.38
07年　１月	0	0	95.00	43.50	0
２月	0	0	93.00	34.80	0
３月	0	0	84.00	34.80	0
４月	0	0	75.00	34.80	0
５月	0	0	50.00	25.00	0
６月	0	0	0	0	0

（注）「日刊酪農乳業速報」集計。各月末の補助金。チーズはチェダー。

ＥＵの補助金付き乳製品輸出は、1960年代から、ＥＵ（当時のＥＥＣ）域内にあった大量の過剰在庫乳製品を消化するため、多額の補助金をつけて輸出したことに始まる。それが70年代から90年代に入ると、ＥＵ（ＥＥＣ）の輸出補助金付きの乳製品価格が国際乳製品指標価格となっていた。

ところが、ガットウルグアイラウンドでＥＵの補助金付き乳製品輸出が問題視された。95年からＷＴＯ（世界貿易機関）体制になり、01年以降の新しい貿易ルールを検討していく中で、05年12月の香港閣僚会合でＥＵはすべての乳製品輸出補助金を13年までに廃止することを表明した。

こうした背景もあったため、６月の「全品ゼロ」は６年も前倒しとなったことから、世界を驚かせることになった。しかし、ＥＵの農業・農村開発担当者委員会を代表するフィッシャー・ボエル委員は「国際価格との関係でゼロにしたもので、一時的措置」としており、乳製品の国際相場が再び軟調になれば、13年までに輸出補助金が復活する可能性のあることを示唆している。

ＥＵにとってみれば、アジアやアフリカなどは多額の補助金を付けて開拓した市場でもあるわけで、補助金なしの乳製品輸出は自らの市場を失うかシェアを落とす危険性もないわけではない。というのも、90年代以降、ニュージーランドやオーストラリアなどオセアニア２カ国が国際市場での地位を着実に上げ、将来もその方向を固めているからだ。

■ 需要急伸で国際相場は2倍以上

ＥＵが乳製品の輸出補助金をゼロにしたのは乳製品の国際相場が高騰し、補助金のない輸出価格でも国際競争力があると判断したためだが、国際相場が高騰した理由は乳製品の供給量を上回る需要量があることにほかならない。オーストラリアの100年に１度といわれる大干ばつがここ数年間のうちに２度も起こり、世界市場への供給量が減少したことも一因であるにせよ、需要の急伸の方が要素としては大きいようだ。

この需要急伸はＢＲＩＣｓ（ブリックス）と呼ばれるブラジル、ロシア、インド、中国の各国で経済成長に伴う購買力が増大しているためだ。ＥＵは、加盟27カ国合計で１億5,000万㌧の生乳生産量だが、単独の国としては、インドは9,700万㌧、中国は3,300万㌧を

誇り、アメリカの8,200万㌧台を加えて世界の生乳生産国上位ビッグ３を形成している。そのインドと中国はともに年々生乳生産量を増やしているが、それでも国内生産量は需要を満たしているわけではない。これに中東産油国、東南アジアの堅調な需要があるため、当分、乳製品の国際相場高騰は沈静化しそうにないとみられている。

現に、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）とＦＡＯ（国連食糧農業機関）が７月に発表した共同レポート「2007－2016農業見通し」でも、インドと中国が世界の乳製品需要を引っ張るとし、すべての乳製品輸出で増加が見込まれるのはニュージーランドと予測している。また、今後９年間で主要な乳製品のうち相場が下落すると予測したのはカゼインだけで、それ以外の乳製品は緩やかな値上がりを続けるとしている。

そこで、最近の乳製品の国際相場の推移をみると、（表４）の通りである。

乳製品の国際相場が急騰したのは昨年11月からだが、現在（07年８月）と１年前の06年８月の西ヨーロッパ港積み１㌧当たりＦＯＢ（本船渡し値段）を比べると、07年８月のバターは3,300米ドル（約38万6,100円。１米ドル117円換算）～3,800米ドル（約44万4,600円）で、前年比204％～217％、脱脂粉乳は5,100米ドル（約59万6,700円）～5,300米ドル（約62万円）で237％～236％、全脂粉乳は4,850米ドル（約56万7,500円）～5,250米ドル（約61万4.300円）で231％～239％となっており、いずれも２倍以上に高騰している。これらはいずれも史上最高水準にある。

また、この値動きで特徴的なのは脱脂粉乳の相場が全脂粉乳を上回っていることである。通常は全脂粉乳相場が脱脂粉乳相場を上回っているが、それが逆転した。2000年代に入って脱脂粉乳相場が急騰したのは00年６月（1,900～2,000米ドル）から01年５月（2,000～2,050米ドル）の１年間だが、この時も脱脂粉乳相場は全脂粉乳相場を50～200米ドル上回って推移した。ＥＵは07年に入っても世界市場への脱脂粉乳供給に比較的余裕があったが、乳製品の生産を付加価値の高いチーズにシフトしている面もあって、需要急伸に対し

（表4）最近の乳製品国際相場の推移　（米ドル／ｔ。ＦＯＢ）

	バター	脱脂粉乳	全脂粉乳	チーズ
06年　４月	1,750－1,800	2,000－2,200	2,100－2,230	2,625
５月	1,700－1,830	2,050－2,150	2,100－2,200	2,625
６月	1,650－1,800	2,050－2,150	2,100－2,200	2,625
７月	1,620－1,750	2,000－2,150	2,100－2,200	2,625
８月	1,620－1,750	2,150－2,250	2,100－2,200	2,600
９月	1,600－1,750	2,130－2,110	2,200－2,300	2,620
10月	1,650－1,750	2,250－2,350	2,200－2,300	2,625
11月	1,850－1,950	2,700－3,000	2,500－2,700	2,750
12月	1,900－2,000	2,900－3,100	2,700－3,100	2,800
07年　１月	2,000－2,100	3,000－3,200	3,000－3,200	2,900
２月	2,050－2,200	3,250－3,350	3,150－3,250	2,925
３月	2,250－2,350	3,650－3,750	3,500－3,700	3,100
４月	2,500－2,700	4,100－4,400	4,100－4,350	3,250
５月	2,700－3,000	4,700－5,000	4,600－4,900	3,500
６月	2,700－3,000	4,900－5,200	4,600－5,000	3,950
７月	2,900－3,400	5,000－5,250	4,800－5,250	4,350
８月	3,300－3,800	5,100－5,300	4,850－5,250	4,900

（注）「ＺＭＰ」調べ。各月末の相場で、バター、脱脂粉乳、全脂粉乳は西ヨーロッパ港積み。チーズ（チェダー）はＮＺ港積み。

て供給に限度が出始めている。

全脂粉乳の用途は先進国以外は直接飲用に仕向けられる比率が高いが、脱脂粉乳は用途が直接飲用だけでなくヨーグルト、乳酸菌飲料のほかに、パン、菓子や一般加工食品の原料にも広く使われるという特性がある。

■ 欧州産脱粉を輸入すれば日本の倍に

参考までに、バターと脱脂粉乳の相場を日本の大口需要者価格（表１）と比較すると次のようになる。

西ヨーロッパ港積みの７月のバターの中心値を3,150米ドル（約36万8,550円）とすれば、７月の大口需要者価格の１㌧当たり94万6,000円に対して39％に相当し、脱脂粉乳を中心値5,200米ドル（約60万8,400円）とすれば、大口需要者価格の１㌧当たり52万1,960円に対して117％に相当する。

つまり、脱脂粉乳は関税、輸送費などを加えなくても、国際相場はわが国の市況を17％も上回るほどの高値にあるわけだ。しかも、これをわが国に輸入しようとすると、関税、諸掛かりなどを加えると国内の倍以上になる計算だ。

また、バターにしても、農畜産業振興機構が６月に行った07年度ＣＡバター6,625㌧の輸入商社入札の結果は、ヨーロッパ産（4,467㌧）の輸入価格は１㌔平均845円で落札した。７月の大口需要者価格は946円だから、国産物は101円高でしかないほど輸入物との差が縮小してきている。ちなみに５年前（02年10月）のＣＡ輸入落札価格は１㌔271円で、大口需要者価格は950円で、国産物は679円高だった。国産物に値動きがないためもあるが、国際相場の高騰はこの点からも分かる。

■ 相場高が日本と先進国乳価を値上げ

こうした史上まれにみる乳製品の国際相場高騰はＥＵ、ニュージーランドを代表する世界的な乳業メーカーの支払い乳価値上げという現象となって表れた。

日本ではホクレンが８月下旬に、07年度の新規需要者向けの加工原料乳価について上期分は１㌔当たり２円46銭値上げして50円に、下期分は10円42銭値上げして57円96銭とすることで乳業メーカーと合意したことを明らかにした。この新規需要向けとは輸入粉乳調製品を北海道産脱脂粉乳に置き換える用途を指す。

わが国の指定団体と乳業メーカーは、２年前から脱脂粉乳の過剰在庫解消対策として、輸入の粉乳調製品や飼料用脱脂粉乳と国産脱脂粉乳の置き換え努力を続けてきたが、ホクレンは今回、国際的な脱脂粉乳相場の高騰を受けて、輸入粉乳調製品に置き換える分の道産脱脂粉乳（製品重量で約２万1,000㌧。06年度実績は約２万9,000㌧）に相当する生乳の値上げを乳業メーカーに求めていた。通常取引の脱脂粉乳向け生乳は据え置きの57円96銭となったが、国際相場を念頭に置いた交渉・決着は初めて。

折しも北海道では08年度から大手乳業によるチーズ工場の新・増設で生乳需要増が期待されている。チーズの国際相場も１年前に比べ２倍近い値上がり（表４）となっていることから、08年度のチーズ向け乳価交渉の成り行きも注目されるところだ。さらに、脱脂粉乳やバターの在庫量については乳業メーカーに開きがあるものの、今年度中にも需給改善の可能性が見え始めたことから、「08年度は主要乳製品の価格や需給がターニングポイントの年になる」可能性がある。

海外では、国際的な乳製品輸出企業で、デンマークとスウェーデンに本社を置くアーラ・フーズとニュージーランドのフォンテラは９月から乳価を６月に比べそれぞれ11％、16％値上げした。アーラ・フーズは生乳１㌔当たり２・34デンマーククローネ（約50円）、フォンテラは乳固形分１㌔当たり６・40ＮＺドル（約547円）とした。この両者はともに酪農協を母体とする農協乳業だが、乳価値上げの理由を、国際的な乳製品相場高に伴う支払い余力があることと、会員酪農家に対して生乳生産意欲を喚起するためとしている。

この両者の支払い乳価値上げは特異なことではなく、オーストラリア、アメリカはもとより、ＥＵ域内でも乳価値上げラッシュとなっている。中でもＥＵの多くの国は06年の乳価水準が低かったこともあり、廃業や燃料代値上げによる生産コスト増などでクォータ（生乳出荷割り当て）を割り込む危機感もあって、乳

価値上げとなっている。

国際相場の高騰続けばＣＡ実行に影響

国際乳製品相場が高騰している現在を踏まえてＯＥＣＤとＦＡＯは共同レポートを発表し、今後９年間は、カゼイン以外の乳製品は緩やかな値上がりが続くと予測した。インドと中国が需要を引っ張るためとしているが、来年の北京オリンピックを控えてバブルともみられる中国経済の先行きの観測は専門家に任せることとして、ここまで世界の乳製品需要の急伸を支えてきたＢＲＩＣｓの需要が鈍化しないとすれば、新たな課題がわが国に生まれるのではなかろうか。それはＣＡがこれまでのように実行できるのかということだ。

ＣＡは、ガットウルグアイラウンドで、「日本は95年から00年までの６年間、毎年、生乳換算で13万7,200㌧の乳製品を輸入する」ことが決まり、新ラウンドが決着していないことから、01年以降、現在の07年度まで同量の乳製品を輸入してきた。

ところが、最近のように、国際乳製品相場が高騰し、一方で、豪州の大干ばつやＥＵのクォータもあって、乳製品自体も不足基調になると、輸入義務の履行に大変な足かせになるという一面が生じることになるのではないかとの懸念が出ている。その懸念は輸入量についてであり、輸入価格についてもしかりである。

これまでは、輸入する乳製品は世界にふんだんにあり、価格も安いという面があった。いわば、「ＣＡをしぶしぶ飲んで、約束事を果たしてきた」状態だったが、07年度のＣＡバターのように、内外価格差もほとんどなくなり、輸入量の手当もこれまでのように簡単ではなくなった現在、焦点は価格よりも輸入量の手当に移った気配さえある。

「モノが不足すれば値は上がる」というのは経済の原則だが、恐らく、わが国のＣＡ乳製品とともに、それ以外の乳製品輸入もラチ外ではすまされない。豆腐や納豆がひと晩で３倍になったといわれるほど、73年から74年にかけて猛烈なオイルショックの直撃を受けたわが国だが、その当時よりも乳製品需要のグローバル化がはっきりした現在、来年は、加工原料向け乳価が現状のままであれば、国産物よりも高い乳製品を買ったり、買わざるを得ない事態になると推察される。ＣＡで輸入する乳製品は、バターであれ、脱脂粉乳であれ、わが国の判断に任されているが、輸入価格は国際相場がベースとなる。輸入量は国際約束だから守らなければならないが、輸入価格の規定はない。従って、輸入量消化のためには高い輸入価格に目をつぶるということは決して絵空ごとではない。このため、酪農乳業界は消費者に、こうした世界の状況を伝えるとともに、国産乳製品の重要性を訴え続けていきたいものである。

TOPICS
-1-

トピックス…①

平成20年度予算概算要求、牛乳乳製品課の要求内容決まる

農水省は8月31日、財務省に平成20年度の一般会計予算を概算要求した。酪農関係では、配合飼料価格安定制度の財源を充実させる「配合飼料価格安定資金造成事業」に50億円を新規要求したほか、「指定生乳生産者団体補給交付金」に209億円、「加工原料乳生産者経営安定対策事業」に13億円、「酪農飼料基盤拡大推進事業」に54億円などを継続要求した。
今後、農水省は財務省との間で予算額の確定に向けた折衝に入り、財務省は12月に予算額を内示する予定となっている。

●配合飼料基金の財源確保に50億円要求

農水省は８月31日の省議で、20年度の一般予算概算要求額を前年比14・９％増の３兆949億円と決定、財務省に要求した。生産局畜産部関係では、新規事業として「配合飼料価格安定資金造成事業」に50億円を要求した。

配合飼料価格の高騰による酪農家への影響を緩和するために創設されている「配合飼料価格安定制度」には、国と配合飼料メーカーの拠出による「異常補てん基金」と、酪農・畜産農家と配合飼料メーカーの拠出による「通常補てん基金」で成り立っており、配合飼料の輸入原料価格や配合飼料価格が一定の基準を超えた場合、その超過分を補てんする仕組みとなっている。

19年度当初の各基金の財源状況は、「通常補てん基金」が600億円、「異常補てん基金」が860億円あったが、18年度後半からバイオエタノール向けとうもろこしの需要が急増し、配合飼料原料の穀物価格が急騰。その影響で配合飼料価格の値上がりが続いたことで、基金による補てん額が増加し、基金の財源不足が心配されている。

このため、農水省は「配合飼料価格安定資金造成事業」で50億円を新規要求し、「異常補てん基金」への財源積み増し、及び「通常補てん基金」の財源が不足して金融機関から借り入れする場合の利子助成に充当する仕組みを求めている。

●ゲタ、ナラシなど主要事業は従来通り要求

牛乳乳製品課関係をみると、毎年３月の畜産物価格・関連対策で決定する「指定生乳生産者団体補給交付金」（ゲタ）に209億円（前年度予算額は211億円）を要求しているほか、「加工原料生産者経営安定対策事業」（ナラシ）に13億円（29億円）、「乳業再編整備等対策事業」（乳業再編事業）に前年度予算並みの41億2,000万円、「学校給食用牛乳等供給推進事業」（学乳事業）に前年並みの22億円をそれぞれ要求した。

このほか、酪農関係では、経産牛１頭当たりの飼料作付面積が一定の基準以上あり、環境保全や飼料自給率の向上につながる取り組みをしている酪農家に対して、飼料作付面積に応じて奨励金を交付する「酪農飼料基盤拡大推進事業」に前年並みの54億4,600万円を継続要求した。

●乳業再編、学乳事業で拡充要求

乳業再編事業では、15年度以来５年ぶりに飲用牛乳

工場の再編整備を支援する事業を要求した。同事業は15年度まで飲用牛乳工場の再編整備を支援する事業を実施していたが、飲用工場の再編整備がほぼ終わったことで、16年度からは乳製品工場の再編整備に事業を限定していた。

18年度の飲用牛乳工場に占めるＨＡＣＣＰ取得工場の割合は62％となっている。その大半は大手乳業者であり、経営の苦しい中小乳業者が補助金なしで高度な衛生水準を備えた施設に更新することは大きな負担が生じることから、飲用牛乳工場の施設の老朽化が目立っているにもかかわらず、整備がなかなか進んでいない。

牛乳乳製品課はこうした状況を受けて、乳業再編事業の中でＨＡＣＣＰを導入した高度な衛生水準を備える飲用牛乳工場の再編整備に支援する事業を５年ぶりに復活要求し、中小乳業者の老朽化している工場の施設を再編整備することで、「国民の牛乳乳製品へのさらなる安全、安心を確保したい」（平岩裕規牛乳乳製品課長）としている。

一方、学乳事業では、メニュー事業の中で学乳供給日数を拡大した場合に助成する事業を新たに要求した。テスト期間や運動会などの学校行事で本来は学乳供給が休止する期間に学乳を供給した場合、供給を増やした日数に応じて費用を定額助成する仕組みを求めている。牛乳乳製品課はさらに、幼稚園や高校生などの学乳供給が始まる前後の世代を対象に牛乳飲用の効果を普及啓発するメニュー事業の追加も検討している。

●ＧＡＰ手法導入で乳温管理を支援

このほかの牛乳乳製品課関係の要求事業では、生産局全体の新規事業「先進的総合生産工程管理体制構築事業」（生産局全体の要求額は10億2,700万円）の中で、食品の安全、安心の確保のために、農業生産の全工程を管理する「ＧＡＰ（Good Agricultural Practice）手法」の考えを生乳の生産、出荷段階に導入し、地域でモデル的にバルククーラーやクーラーステーションの乳温管理の情報をデータベース化する取り組みなどに助成する事業を要求した。また、同じく生産局全体で要求している「農業競争力強化対策民間団体事業」（20億円）の中で、生乳の需給見通しの策定や生乳検査方法の統一を支援する「生乳流通対策推進事業」を継続要求した。

TOPICS -2-

トピックス…②

中酪理事会、新副会長に砂金、村上両氏選任
「緊急対策」の検討を正式決定

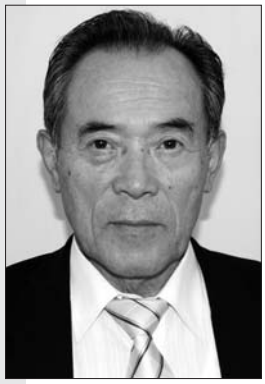
中央酪農会議は9月11日に理事会を開き、空席だった副会長に砂金甚太郎理事（全酪連会長）、村上武久理事（近畿生乳販連会長）の両氏を選任した。また、8月28日の指定団体実務責任者会議で議論し「酪農生産基盤確保・需給安定緊急対策」の検討に入ることが正式に決まった。

●新副会長に砂金全酪連会長、村上近畿販連会長

中酪は９月11日、東京・竹橋のＫＫＲホテル東京で第291回理事会を開催し、上野千里、河合正秋両理事の退任で空席となっていた副会長に砂金甚太郎、村上武久の両理事を選任した。

Profile

砂金甚太郎（いさご じんたろう）
平成11年６月宮城県酪連会長、13年４月みやぎの酪農協組合長、同年７月東北生乳販連会長、中酪理事、全国酪農協会理事、19年７月全酪連会長。61歳。



Profile

村上武久（むらかみ たけひさ）
平成元年６月京都府経済連参事、７年５月同専務、13年４月全農京都本部運営委員会副会長、近畿生乳販連会長、同年７月中酪理事。69歳。

●酪農生産基盤確保、需給安定で緊急対策検討

理事会ではまた、８月28日の指定団体・全国連実務責任者会議で議論した「酪農生産基盤確保・需給安定緊急対策」（緊急対策）の検討に入ることが正式に決まった。

配合飼料価格の高騰による生乳生産コストの増加による所得の減少などで今年度に入って廃業が進み、酪農生産基盤の弱体化が心配される。一方、国際的な乳製品需給のひっ迫や北海道のチーズ増産で国内の生乳需要の増加が見込まれることから、今後、国内で生乳が不足する心配がある。このため、わが国の酪農をめぐる厳しい環境を踏まえ、酪農生産基盤を安定させて、生乳需要の変化に的確に対応した安定的な生乳供給を図る観点から、理事会では、指定団体など酪農関係者が連携して「緊急対策」を検討することが決まった。

「緊急対策」は、①酪農家の経営安定を図る「酪農生産基盤強化対策」、②平成20年度の適正な生乳価格の形成を目指す「生乳供給安定確保対策」、③生乳の用途別需要に応じた適切な計画生産数量の設定などを図る「生乳計画生産・需給調整対策」、④消費者に酪農生産の現状などを理解してもらう「酪農理解促進・牛乳消費拡大対策」―の４つで、可能なものから実行に移すこととなった。

●酪農界あげて広く国民に理解求める

中酪は「緊急対策」の実行第１弾として10月から12月の３ヵ月間、指定団体を中心に地域の酪農関係者が連携し、消費者、牛乳販売店や生協など流通関係団体、マスコミを対象に酪農現場の窮状や国内外の牛乳乳製品をめぐる状況を訴え、理解を深めてもらう「酪農理解促進生産者緊急活動」を実施する。

●「緊急対策」、「酪農理解促進生産者緊急活動」の概要

理事会で決定した「緊急対策」及び「酪農理解促進生産者緊急活動」の概要（理事会提出資料から抜粋）は以下の通り。

「酪農生産基盤確保・需給安定緊急対策」

1）酪農生産基盤強化対策

輸入飼料価格の高騰など、わが国酪農経営に係る基本要素の変化動向を踏まえ、乳用牛の個体能力の向上と耐用年数の延長、酪農生産における土地利用の拡大(飼料自給率の向上)、経営組織（経営部門)の多角化・付加価値化、担い手・新規参入対策等の強化対策並びにそれを推進するための支援方策及び組織の役割。

2）生乳供給安定確保対策

生乳需要の変化に対応して安定的な生乳供給を実現するため、平成20年度に係る需給に対応した生乳価格対策（生乳の適正な価格形成)、生乳取引対策（液状化の一層の推進）並びにこれらを推進するための指定団体の機能強化方策。

3） 生乳計画生産・需給調整対策

生乳の用途別需要に対応した適切な計画生産数量の設定及び地域別配分、個人別生産枠の流動化対策、季節別生乳需給に対応した弾力的な広域生乳流通対策、需要期生産・余乳処理対策等並びにその推進方策。

4） 酪農理解促進・牛乳消費拡大対策

消費者（納税者）に酪農生産の現状を幅広く理解させるための酪農教育ファーム活動・消費者への情報提供等の酪農理解促進対策、Ｊミルクにおける消費拡大活動の改善・強化、「牛乳に相談だ」キャンペーンの拡充等の牛乳消費拡大対策並びにその推進方策。

「酪農理解促進生産者緊急活動」

（緊急活動の主な内容）

1）一般消費者に向けた活動

酪農をめぐる情勢の危機的な変化について、地域の消費者の理解を促進するため、地域の酪農の現状を訴求するチラシ等を制作し、街頭イベントなどの効果的な方法で、組織及び酪農家が連携して工夫を凝らし、活発な情宣活動を実施する。

また、地域交流牧場全国連絡会等の酪農家と連携し、牧場に訪れる関心の高い消費者に対して、同様の理解促進活動を推進する。さらに、中央酪農会議発行の「ミルククラブ」等消費者向け情報誌及び新聞、各組織のＨＰ等での必要な情報を発信する。

2） 関係団体等に対する活動

牛乳販売店組織、生協等に対しても、状況説明・意見交換会等の活動を行い、併せて傘下の消費者等の理解促進が進むよう、チラシ等の配布など必要な協力・連携活動を依頼する。

併せて、中央酪農会議発行の量販店向け情報誌及びその他の雑誌等で必要な情報を発信する。

3）マスコミ向けの活動

関連する酪農理解促進資料及び緊急活動に関する情報を整理し、マスコミ各社に対してパブ・リリースとして配布するとともに、記者懇談会などを中央・地域で開催し、マスコミ関係者の理解促進を図る。

（緊急活動の実施期間）

緊急活動の統一的な実施期間を10月から12月の３か月間とする。

（緊急活動に向けた手順）

1）情宣基礎資料の作成・提供

国民の酪農理解を浸透させるため、関連する情報やデータを整理した情宣基礎資料を本会議で作成し、指定団体等に提供する。

併せて、消費者向けチラシ及びマスコミ向けリリースを制作し、配布・提供する。

2） 緊急活動実行マニュアルの作成・提供

より効果的で的確な緊急活動が実行されるよう「緊急活動実行マニュアル」を本会議で作成し、指定団体等に提供する。

3） 緊急活動実行計画の作成と推進

指定団体は、それぞれの緊急活動実行計画を作成し、これに基づき活動を計画的に推進する。なお実行計画については、事前に本会議に提出するものとし、より効果的な活動を全国で推進するため必要な調整を行う。

TOPICS -3-

トピックス…③

評議員会を開催

中央酪農会議は9月20日から21日に、三重県桑名市の長島温泉「ホテル花水木」で、評議員会を開き、平成19年度事業の主要な課題と進捗状況を報告し、意見交換を行った。

●平成19年度より評議員数を増加

中酪は今年度より評議員の定数を25名から41名へ増やし、広く意見交換を行うことができるようにした。

今年度の評議員は下表のとおり。

地　域	氏　名	所属・役職名
北海道	伊藤　政光	ホクレン生乳受託販売委員会特別委員会委員長
	新井　光雄	ホクレン生乳受託販売委員会特別委員会副委員長
	瀧澤　義一	ホクレン生乳受託販売委員会特別委員会副委員長
	板東　寛之	ホクレン酪農部長
東　北	工藤　　信	東北生乳販連理事
	鈴木　哲郎	東北生乳販連理事
	保科　武毅	東北生乳販連理事
	遠藤　芳雄	東北生乳販連理事
	但野　忠義	東北生乳販連理事
関　東	林　　克郎	関東生乳販連常務理事
	大槻　和夫	関東生乳販連理事
	前田　忠利	関東生乳販連代表理事副会長
	笠原　貞男	関東生乳販連理事
	奥澤　捷貴	関東生乳販連理事
	田中　康夫	関東生乳販連理事
	前　　薫	関東生乳販連理事
	酒井　治孝	関東生乳販連理事
北　陸	桑原　達也	北陸酪連理事
	舘　　幸男	北陸酪連理事
	米田　孝志	北陸酪連監事
東　海	鹿田　　均	東海酪連理事
	馬瀬口弘志	東海酪連代表理事副会長
	横山　　巌	東海酪連理事
近　畿	伊藤　辰夫	近畿生乳販連理事
	小西　　亨	近畿生乳販連理事
	倉橋　準典	近畿生乳販連副会長理事
	永田　正利	近畿生乳販連理事
	楠本　健次	近畿生乳販連理事
中　国	幅田信一郎	中国生乳販連代表理事副会長
	反田　陽一	中国生乳販連理事
	山本　　武	中国生乳販連理事
	原田　康典	中国生乳販連筆頭理事
四　国	合田　政光	四国生乳販連理事
	宇佐美忠孝	四国生乳販連副会長理事
	黒岩　英樹	四国生乳販連理事
九　州	松尾　忠男	九州生乳販連理事
	宮本　貞寿	九州生乳販連理事
	吉田　孝壽	九州生乳販連理事
	畑尾　常夫	九州生乳販連理事
	横山　忠男	九州生乳販連理事
	南原　　需	九州生乳販連代表理事副会長

●19年度事業の進捗状況について意見交換

9月20日から21日に開催した評議員会では、以下の4つのテーマについて、活発な意見交換を行った。

①本会議18年度事業結果及び19年度事業の基本課題

②生乳計画生産と生乳需給

③酪農経営をめぐる情勢と今後の取組み

④牛乳消費拡大・酪農理解促進事業の概要。

TOPICS -4-

トピックス…④

加工原料乳生産者経営安定対策事業の概要

中央酪農会議は9月6日、東京都千代田区のコープビルで、加工原料乳生産者経営安定対策事業担当者会議を開き、平成19年度及び20年度事業の当面の流れについて説明・協議した。

●20年度からの実施に向けた主な改正点

○補てん金交付に当たっての上限設定

現行の事業では、積立金が不足した場合には借入により対応することになっている。このように無制限に補てん金を支払う仕組みは一般的に理解が得られなくなっていることに加え、現在の中酪基金規模（80億円）での対応が可能であると考えられる。このため、実施要綱が改正され、借入れを行わず基金規模を上限にして事業を実施することとされた。

○生産者通知の簡略化

現行の業務方法書を改正し、様式第４号を廃止し、生産者への価格通知を簡略化できるようにした。

ただし、管内の全生産者に価格通知の内容を確実に周知徹底することが必要であることから、指定団体の機関紙・HP等を通じて周知を図る必要がある。

●今後の事業の流れ

前項の改正点を踏まえ、以下のとおり作業が進められることになる。

①実施要綱・実施要領の改正

（独）農畜産業振興機構及び中央酪農会議で早急に実施する。

②業務方法書の改正

中央酪農会議からの業務方法書例の通知に基づき、指定団体理事会での協議を経て、原則として10月末までに、農林水産省生産局長に申請し承認を受ける。

③生産者積立金契約者との新契約の締結

農林水産省生産局長の承認が下り次第、生産者積立金契約者との間の再契約手続きに入る。

これまでと同様に、乳代精算時に乳代から控除して拠出を行う関係上、指定団体が生産者に乳代精算を行う際に経由するすべての農協が含まれた契約とする必要がある。

今回の再契約は、現契約の規定上、実施期間終了の１か月前までにすべての契約の手続きを完了する必要がある。このため、平成20年２月末までに手続きを完了するものとする。

なお、契約書の締結期日は、実施日（実際に締結した日）ベースとする。

④生産者への拠出金の返還・補てん金の交付

・拠出金の返還

中央酪農会議へ返還する補助金額（後日指定団体宛通知）見合いの拠出金部分（補助金返還額の３分の１）を生産者積立金契約者へ返還する。

・補てん金の交付

前述の生産者拠出金を取り崩した後の生産者積立金より、補てん金単価１kg当たり1.30円相当を生産者積立金契約者へ交付するものとする。

補てん金単価算定基礎

H18補てん基準価格　60.54円／kg…a
H18平均取引価格　58.91円／kg…b
(a−b)×0.8＝1.304≒1.30円／kg

なお、拠出金の返還及び補てん金の交付に当たっては、生産者積立金契約者に対して、現行業務方法書様式（第３号、第４号、第６号）を送付するものとし、年度内に完了させるものとする。

TOPICS -5-

トピックス…⑤

第6回ALL JAPAN ナチュラルチーズコンテスト開催

中央酪農会議は11月21日(水)14時から、東京・文京区後楽の東京ドームホテル地下1階「天空」において、第6回ALL JAPANナチュラルチーズコンテストを開催する。

●コンテスト開催案内

1．開催主旨

①ナチュラルチーズ生産者間の意見交換及び専門家によるアドバイス等を通して、国産ナチュラルチーズの製造技術向上を図る。

②専門家の評価・アドバイスと合わせ、ナチュラルチーズのユーザーからいただく意見等を今後のチーズを製造する上でのコンセプトに生かす。

③国産ナチュラルチーズのユーザーへの紹介

④日本人の嗜好に合ったチーズ製造や、日本の気候風土に合った独自のナチュラルチーズ文化の創造を通した生乳の需要拡大を図る。

2．開催日時・場所

日　時：平成19年11月21日（水）
14：00〜18：00（受付13：00〜）

場　所：東京都文京区後楽1-3-61
東京ドームホテル地下1階「天空」

3．プログラム（予定）

(1) 11月20日（火）

①1次審査（非公開）　15：00〜19：00

(2) 11月21日（水）

②2次審査（マスコミを対象に公開）
9：30〜14：00

③シンポジウム
今後の日本のチーズ食文化について、専門家3名による提案（予定）
14：00〜15：30

④表彰　15：30〜16：30

⑤試食・懇談会　16：30〜18：00

4．コンテスト出展対象

①出展対象者
現在国産ナチュラルチーズを製造販売している方

②出展対象作品
①の方が製造する製品で、販売実績や販売予定の有無は問わない。

③その他
過去の受賞作品の出展も可能。各出展対象者の出展作品数は各審査部門ごと1アイテムとする。

5．審査部門

①「リコッタ」タイプ
②「フレッシュ」タイプ
③「ウオッシュ」タイプ
④「シェーブル」タイプ
⑤「白カビ」タイプ
⑥「青カビ」タイプ
⑦「ハード」熟成3か月未満
⑧「ハード」熟成6か月未満
⑨「ハード」熟成6か月以上

6．主な審査員（順不同）

・村山　重信（チーズプロフェッショナル協会会長）
・江上　栄子（江上料理学院院長）
・栢　　英彦（チーズ研究家）
・阿久澤良造（日本獣医畜産大学教授）
・諸徳寺宣興（株式会社アルテピアット顧問）
・鎌田　昭男（東京ドームホテル総料理長）

7．主催・後援

主催：社団法人中央酪農会議

後援：農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、社団法人日本酪農乳業協会、社団法人日本乳業協会、社団法人日本乳業技術協会（予定）。

●コンテスト出展者を募集

中央酪農会議では、コンテストへの出展者を募集しています。

出展を希望する方は、**事務局**に申込み締切日を確認の上、下記の中央酪農会議ホームページより、出展申込書をダウンロードし、FAXまたは郵送にてお送りください。参加の程お待ちしています。

中酪ホームページ

http://www.dairy.co.jp/

【事務局】

〒104-0042
東京都中央区入船2-2-15　Suite One Court 402
ＴＥＬ：03-3537-1250
ＦＡＸ：03-3537-1260
E-mail：info@cheese-contest.com

TOPICS
-6-

トピックス…⑥

平成18年度
酪農全国基礎調査報告会を開催

中央酪農会議は、9月8日（土）、東京・文京区弥生の東京大学農学部で、平成18年度酪農全国基礎調査（現地調査）に参加した学識経験者による調査結果報告会を開催した。

●調査の実施概要

既に中酪ホームページにて、「調査結果のまとめ」は公表しているが、調査の実施概要は次のとおりである。

1．調査趣旨

最近の酪農の情勢の変化及び酪農経営の多様化が進む中、今までのような単一的な支援・対策では対応できない可能性があることから、生乳生産及び流通実態とその構造変化の特徴、経営の新たな動向と課題に関し、詳細に把握・分析することが不可欠であること、並びに今後の悉皆調査等の調査のあり方に対する有益な示唆を得ることを目的とした。

2．調査方法

学識経験者を中心としたヒアリング調査

3．調査対象地域

北海道（根釧・十勝）、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の10地域

4．調査実施時期

平成18年10月～12月

5．調査実施内容

①酪農経営の直面する課題と今後の展開方法
②経営収益の維持・拡大のための方策
③土地利用の現状と今後の方向性
　・放牧及び飼料生産の現状と今後の方向性
　・環境対策の現状と今後の方向性
④生乳の安全・安心に関する意識と取組み状況
⑤生乳流通コストに関する意識と生乳販売一元化に対する考え方
⑥生乳計画生産の影響と対策
⑦各種補助事業及び融資制度への関心と対応
⑧情報入手経路

6．調査参加学識経験者（所属名等は調査当時のもの）

生源寺眞一（東京大学大学院農学生命研究科教授）
小林　信一（日本大学生物資源科学部教授）
栗原　伸一（千葉大学園芸学部助教授）
信岡　誠治（東京農業大学農学部助教授）
日向　貴久（北海道立根釧農業試験場研究員）
鵜川　洋樹（北海道農業研究センター業務推進室長）
福田　　晋（九州大学大学院農学研究院助教授）
霜浦　森平（千葉大学園芸学部助手）
末宗　範子（東京大学大学院農学生命科学研究科）

●調査結果報告会での協議

前項の学識経験者が参加し、以下の４つのテーマ別報告書ごとに、各地域の状況を踏まえたディスカッションを行った。

①多様化する酪農経営について
　●報告者：生源寺教授
②酪農経営における生乳流通対策と需給対応の影響の検討について
　●報告者：小林教授
③安全性を中心とした品質確保と都市農村交流活動への取組みについて
　●報告者：栗原助教授・霜浦助手
④酪農経営におけるふん尿処理等環境問題への対応状況と土地利用の現状と課題について
　●報告者：信岡助教授

TOPICS
-7-

トピックス…⑦

酪農教育ファーム認証制度の見直しを検討、新制度は20年度導入目指す

中央酪農会議は8月28日の指定団体実務責任者会議で、酪農教育ファームなど牧場での消費者交流活動に対する今後の支援のあり方について検討に入る方針を決めた。酪農教育ファーム推進委員会内に「酪農教育ファーム認証制度検討会」を設置して現行の酪農教育ファーム認証制度の見直しの検討を始め、そこでの結論を経て平成20年度から新たな認証制度に移行する予定。

現在、わが国で消費者に一般開放している牧場は約1,000カ所（酪農全国基礎調査から推定）ある。このうち、酪農教育ファームの認証を取得した牧場は220カ所（平成19年３月現在）で、平成18年度に認証牧場で酪農体験に参加した児童・生徒等は約60万人（推計）にのぼる。

しかし、消費者交流を行う酪農家の中からは、その活動内容などは未認証牧場とほとんど変わらない活動をしているにも関わらず、牧場での消費者交流活動に対する支援が認証牧場に集中しているという指摘がある。また､酪農教育ファームとしては､酪農体験学習など教育的視点に立った活動を期待しているが、認証の条件が牧場の安全性や衛生面に限定されており、認証牧場の活動の方針や内容に温度差が生じ、認証牧場からは活動内容などに準じた階層的な認証制度を求める意見が出ている。さらに、18年度から地域での酪農教育ファーム活動を支援している指定団体からは、未認証牧場を含めた合理的な支援活動のあり方を求めるなど現行の認証制度の見直しを求める意見が出ている。

このため、中酪は８月28日の指定団体実務責任者会議で、これら見直しを求める意見を踏まえ「酪農教育ファーム認証制度検討会」を設置し、消費者交流活動を実施する牧場の定義や、牧場の認証条件の考え方、現行の認証制度からの移行措置などの検討を始め、20年度から新しい仕組みを実施することを決めた。

会議で示した「検討メモ」によると、消費者交流活動を実施する牧場を「酪農オープンファーム」（仮称）、「酪農教育ファーム」の２種類に分類し各々の実態に合わせて認証するとしている。

「酪農オープンファーム」は、牧場を余暇の場として消費者に開放し、消費者との幅広い交流活動を実施する牧場としている。認証条件は、牧場での交流活動の安全性確保のための環境整備や衛生管理基準の順守、２年に１回程度の活動内容の現地調査・指導を受けることを条件に、原則として指定団体が認証する。一方、「酪農教育ファーム」は、酪農オープンファームの中で、①酪農体験を通して食といのちの学びを支援する、②酪農生産に関する幅広い知識や情報を広める―といった観点から、体験学習型プログラムを提供できる牧場と位置づけている。認証条件は、酪農オープンファームの条件に加え、認証時に研修会の受講や体験学習に関する知識や技術の習得を図るために、３年に１回のスキルアップ研修会の受講、指定団体による年１回程度の現地調査の実施などを条件に、原則として中酪が認証する。

また、検討会では、各認証の特性等を踏まえた支援ツールや活動プログラムの開発と提供のほか、酪農体験学習活動を自ら実施、指導、支援する個人を「酪農体験学習専門指導員」（仮称）として養成、認定することや、牧場での消費者交流活動が経済的に成立するための料金体系の整備などを検討する。

酪農教育ファーム

酪農体験を通して、食といのちの学びを支援する

平成19年度

酪農教育ファーム 認証牧場募集中！

交流活動を行う牧場における安全確保と衛生管理、子どもたちが安心して学べるための環境の整備を行うことを目的として、認証制度を設立。現在217牧場（平成19年8月現在）が認証を受け、教育関係者を中心にネットワークを組み、酪農教育ファーム活動を展開しています。

平成18年度には認証牧場で酪農体験学習を行った児童・生徒数は約60万人に及び、今後ますます社会的、政策的にも注目を集めることが予想されます。

そこで、今年度も認証牧場の募集を開始します。今年度は酪農家の方々の要望に応え、募集締め切りを10月末と1月末の2回に分けて行います。さらに、認証研修会も東京をはじめ、複数の地域で開催する予定でいますので、この機会にぜひお申込みください。

【申し込み方法】

認証牧場申請書類に必要事項を記入の上、お申し込みください。

＊認証申請書に関しましては、酪農教育ファームホームページよりダウンロードしていただくか、事務局までお問合せください。

http://www.dairy.co.jp/edf/

【申込み締め切り】

第1回：平成19年10月31日（水）　**第2回**：平成20年1月31日（木）

〈認証までの手順〉

書類提出 → 現地審査 → 書類審査 → 仮認証 → 認証研修会受講 → 認証

【お問い合わせ先】

社団法人中央酪農会議　酪農理解促進室／草間・松原

東京都千代田区大手町1-8-3 JAビル7階TEL:03-3245-7624 FAX:03-3242-2423

＊書類提出などに関しましては、お問合せください。

SCHEDULE CALENDAR

10月 OCTOBER

□指定団体・関連団体スケジュール
■中央酪農会議スケジュール

日/SUN	月/MON	火/TUE	水/WED	木/THU	金/FRI	土/SAT
	1 九州：第6回理事会（八百治博多ホテル11:00～） 臨時総会（同理事会終了後） 第2回生乳受託販売委員会（同13:00～）	2 四国：第59回事業推進専門部会（香川県JAビル10:30～） 北陸：第3回生乳受託販売委員会（富山市12:00～）	3 中国：会員実務責任者会議（広島県酪農協三次CS13:00～）	4 関東：生乳受託販売委員会（東京八重洲ホール13:30～） 第87回理事会（販売委員会終了後）	5 関東：第6回生乳安全安心関東地域協議会（夏目ビル地下AB会議室10:30～） 四国：第3回理事会（香川県JAビル13:30～）	6
				第1回酪農教育ファーム認証制度検討会（JAビル13:30～）		
7	8	9 東海：第48回理事会・第27回監事会・役員研修会（岐阜県高山市～10日）	10	11	12 北陸：第4回理事会（金沢市13:00～）	13
				指定団体・全国連実務責任者会議		第4回酪農教育ファーム専門委員会小委員会（学校向け）（中酪会議室） 関東街頭情宣行動（新宿）
14	15	16	17	18	19	20
	「獣医師との連携」に係るワーキングチーム（中酪会議室11:00～）		地域交流牧場全国連絡会リーダー研修会（KKRホテル東京～18日）			
21	22	23	24	25 東海：わくわくモーモースクール（愛知県半田市立乙川小学校）	26	27
		指定団体・全国連実務責任者会議				
28	29	30	31 東海：わくわくモーモースクール酪農体験（岐阜県学校栄養教諭等向け）（岐阜県羽島市大井牧場）			
			海外専門調査（カナダ～11/11） 第6回生乳安全安心全国協議会（13:00～）			

11月NOVEMBER

日/SUN	月/MON	火/TUE	水/WED	木/THU	金/FRI	土/SAT
				1	2	3
				第2回酪農教育ファーム認証制度検討会（JAビル13:30～）		
4	5	6 関東：第88回理事会（場所・時間未定）	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
				地域交流牧場全国連絡会全国研修会（アイリス愛知～16日）		
18	19	20	21 四国：第5回四国地域酪農生産者交流研修会（サンポートホール高松11:00～） 東海：わくわくモーモースクール酪農体験（東海女子短期大学等向け）（岐阜県各務原市東海女子短期大学）	22	23	24
25	26	27 関東：第89回理事会（場所・時間未定）	28	29	30	
	指定団体・全国連実務責任者会議					

酪農関係データ

1. 平成19年度7・8月分用途別販売実績

平成19年9月14日現在　社団法人 中央酪農会議

1）総受託乳量

指定団体	7月		8月		4-8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	314,801	99.4	311,534	100.2	1,562,284	99.6
青　森	6,615	101.4	6,378	99.1	32,869	98.6
岩　手	19,539	98.9	18,954	97.7	97,343	98.5
宮　城	12,391	99.8	11,876	98.3	62,235	98.3
秋　田	2,830	94.0	2,736	96.8	14,183	93.1
山　形	7,317	93.8	7,201	94.2	37,403	95.8
福　島	8,764	94.9	8,376	93.2	44,685	95.6
東北生乳販連	57,456	97.8	55,521	96.8	288,718	97.4
茨　城	14,705	96.5	13,704	93.5	74,489	95.1
栃　木	26,754	98.7	25,904	98.2	134,258	97.1
群　馬	21,444	98.9	20,286	97.8	107,848	97.5
埼　玉	7,387	96.0	6,803	91.7	37,243	93.6
千　葉	21,790	97.5	20,712	95.4	110,621	96.6
東　京	1,142	96.6	1,047	92.4	5,796	95.6
神奈川	5,729	95.4	5,288	93.1	29,361	94.5
山　梨	1,077	96.8	1,069	102.7	5,546	97.4
静　岡	8,022	94.4	7,688	92.0	41,081	93.1
関東生乳販連	108,049	97.5	102,501	95.7	546,245	96.1
大島・八丈島	19	82.1	21	98.5	88	73.8
関東合計	108,068	97.5	102,521	95.7	546,333	96.1
新　潟	5,939	94.3	5,636	93.3	30,189	95.1
富　山	1,425	91.0	1,346	91.2	7,232	90.4
石　川	2,308	96.0	2,121	96.0	11,931	96.6
福　井	839	95.9	787	97.8	4,171	93.9
北陸酪連	10,510	94.3	9,891	93.9	53,523	94.7
長　野	11,147	107.3	10,846	106.3	55,782	106.9
岐　阜	4,858	98.4	4,670	99.6	24,170	98.1
愛　知	19,378	93.2	17,976	89.4	98,054	91.6
三　重	4,323	93.8	4,014	89.8	22,079	91.9
東海酪連	39,706	97.5	37,505	95.0	200,085	96.2
滋　賀	1,840	101.7	1,741	100.9	9,490	101.7
京　都	2,651	108.4	2,524	107.5	13,270	107.0
大　阪	1,282	96.3	1,204	96.8	6,518	97.2
兵　庫	10,660	100.7	9,874	97.2	54,332	98.8
奈　良	2,710	98.0	2,576	97.8	13,736	97.3
和歌山	268	110.8	247	116.0	1,394	114.8
近畿生乳販連	19,411	101.2	18,166	99.1	98,741	100.0
鳥　取	5,346	101.9	5,179	103.0	27,219	100.6
島　根	5,053	98.6	4,888	99.7	26,154	98.5
岡　山	9,464	96.7	9,055	97.5	48,473	95.8
広　島	5,069	94.8	4,873	93.9	25,798	96.9
山　口	1,802	95.5	1,714	98.2	9,324	94.1
中国生乳販連	26,735	97.6	25,708	98.3	136,968	97.3
徳　島	3,735	97.9	3,535	97.7	19,334	97.9
香　川	3,080	95.2	2,940	94.5	15,883	94.3
愛　媛	3,798	96.4	3,621	98.3	19,810	94.4
高　知	1,980	93.2	1,897	94.2	10,613	92.6
四国生乳販連	12,592	96.0	11,993	96.5	65,639	95.1
福　岡	8,892	100.4	8,493	99.2	46,346	99.4
佐　賀	2,153	97.4	2,028	96.6	11,397	96.0
長　崎	4,514	96.6	4,325	96.2	23,630	96.0
熊　本	20,392	99.4	19,831	99.6	106,774	99.4
大　分	7,863	97.3	7,585	97.5	40,802	98.5
宮　崎	7,951	98.3	7,719	99.1	42,507	98.8
鹿児島	7,216	96.7	7,115	98.9	39,028	96.9
九州生乳販連	58,981	98.5	57,097	98.7	310,486	98.5
都府県	333,459	97.8	318,403	96.7	1,700,493	97.0
合　計	648,260	98.6	629,937	98.4	3,262,777	98.2

2）販売乳量

（全乳哺育・特別対策B数量に係る全脂粉乳向けを除く）

指定団体	7月		8月		4-8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	314,801	99.4	311,534	100.2	1,562,284	99.6
東北生乳販連	57,450	97.8	55,515	96.8	288,689	97.4
関東生乳販連	108,049	97.5	102,501	95.7	546,245	96.1
大島・八丈島	19	82.1	21	98.5	88	73.8
関東合計	108,068	97.5	102,521	95.7	546,333	96.1
北陸酪連	10,510	94.3	9,891	93.9	53,523	94.7
東海酪連	39,706	97.5	37,505	95.0	200,085	96.2
近畿生乳販連	19,411	101.2	18,166	99.1	98,741	100.0
中国生乳販連	26,735	97.6	25,708	98.3	136,968	97.3
四国生乳販連	12,592	96.0	11,993	96.5	65,639	95.1
九州生乳販連	58,981	98.5	57,097	98.7	310,486	98.5
都府県	333,453	97.8	318,397	96.7	1,700,464	97.0
合　計	648,254	98.6	629,931	98.4	3,262,747	98.2

3）飲用牛乳向

指定団体	7月		8月		4-8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	63,560	94.0	67,770	99.1	296,926	95.6
東北生乳販連	41,012	93.7	39,979	94.2	203,748	95.2
関東生乳販連	83,209	94.6	81,742	97.3	426,401	95.6
大島・八丈島	14	86.6	16	92.1	77	91.4
関東合計	83,224	94.6	81,758	97.3	426,478	95.6
北陸酪連	10,105	93.9	9,473	94.3	51,355	94.9
東海酪連	33,222	96.6	32,089	98.8	167,758	99.0
近畿生乳販連	18,304	101.1	17,080	98.7	91,876	99.5
中国生乳販連	20,221	95.0	19,367	96.1	102,513	94.9
四国生乳販連	11,106	95.4	10,458	96.7	56,204	95.9
九州生乳販連	46,283	96.2	43,642	96.1	228,629	96.6
都府県	263,476	95.5	253,847	96.6	1,328,560	96.3
合　計	327,037	95.2	321,618	97.1	1,625,486	96.2

4）はっ酵乳等向

指定団体	7月		8月		4-8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	9,280	116.3	8,826	104.6	43,225	113.8
東北生乳販連	5,624	114.6	5,797	111.4	28,949	118.4
関東生乳販連	14,117	100.2	14,828	103.7	69,723	101.3
大島・八丈島	0	—	0	—	0	—
関東合計	14,117	100.2	14,828	103.7	69,723	101.3
北陸酪連	151	106.1	153	104.5	746	146.3
東海酪連	3,573	110.7	3,600	117.0	17,327	112.2
近畿生乳販連	1,082	101.8	1,051	102.6	6,087	101.5
中国生乳販連	4,732	102.8	4,936	105.1	23,693	106.9
四国生乳販連	752	92.9	739	95.0	3,799	93.4
九州生乳販連	5,744	97.4	5,999	98.4	28,019	97.1
都府県	35,776	103.0	37,103	105.0	178,342	104.7
合　計	45,056	105.5	45,929	104.9	221,566	106.4

5）特定乳製品向け

指定団体	7月		8月		4ー8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	134,813	94.9	128,018	94.3	703,303	95.9
東北生乳販連	7,376	104.0	6,517	92.7	39,745	90.4
関東生乳販連	8,986	125.6	4,024	55.6	40,296	88.3
大島・八丈島	5	70.6	5	128.4	12	32.5
関東合計	8,991	125.6	4,029	55.6	40,307	88.3
北陸酪連	190	98.9	209	72.1	1,122	66.9
東海酪連	2,487	100.9	1,422	45.3	12,656	65.2
近畿生乳販連	25	130.4	35	―	778	172.0
中国生乳販連	954	144.9	587	102.5	5,615	101.8
四国生乳販連	443	129.4	476	100.9	4,191	86.2
九州生乳販連	4,257	129.7	4,701	126.8	39,794	108.5
都府県	24,723	116.6	17,975	80.1	144,208	91.1
合　計	159,536	97.7	145,993	92.3	847,511	95.1

6）生クリーム等向け

指定団体	7月		8月		4ー8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	75,970	107.6	75,623	107.4	367,498	106.4
東北生乳販連	2,949	116.7	2,733	119.8	13,944	117.1
関東生乳販連	1,688	102.9	1,860	124.2	9,579	120.5
大島・八丈島	0	―	0	―	0	―
関東合計	1,688	102.9	1,860	124.2	9,579	120.5
北陸酪連	62	145.9	55	121.5	293	117.6
東海酪連	327	62.9	304	46.1	1,710	57.4
近畿生乳販連	0	―	0	―	0	―
中国生乳販連	807	97.3	799	113.3	5,051	102.2
四国生乳販連	284	90.4	312	88.2	1,399	97.1
九州生乳販連	2,610	103.9	2,651	104.8	13,590	107.5
都府県	8,728	104.1	8,712	107.9	45,567	108.2
合　計	84,698	107.2	84,335	107.5	413,065	106.6

7）チーズ向け

指定団体	7月		8月		4ー8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	31,177	109.8	31,298	112.0	151,332	106.7
東北生乳販連	489	118.7	488	116.5	2,303	108.3
関東生乳販連	48	105.6	47	99.7	246	105.3
大島・八丈島	0	―	0	―	0	―
関東合計	48	105.6	47	99.7	246	105.3
北陸酪連	2	98.5	1	48.6	7	84.0
東海酪連	96	81.0	90	67.1	633	93.7
近畿生乳販連	0	―	0	―	0	―
中国生乳販連	20	110.7	20	104.2	96	104.1
四国生乳販連	8	65.6	8	105.4	47	110.3
九州生乳販連	87	97.1	104	115.9	453	100.8
都府県	750	107.5	759	105.4	3,787	104.3
合　計	31,928	109.7	32,057	111.9	155,119	106.6

8）全乳哺育向け

指定団体	7月		8月		4ー8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	0	―	0	―	0	―
東北生乳販連	6	93.0	6	103.4	29	88.3
関東生乳販連	0	―	0	―	0	―
大島・八丈島	0	―	0	―	0	―
関東合計	0	―	0	―	0	―
北陸酪連	0	―	0	―	0	―
東海酪連	0	―	0	―	0	―
近畿生乳販連	0	―	0	―	0	―
中国生乳販連	0	―	0	―	0	―
四国生乳販連	0	―	0	―	0	―
九州生乳販連	0	―	0	―	0	―
都府県	6	93.0	6	103.4	29	88.3
合　計	6	93.0	6	103.4	29	88.3

9）特別対策Ｂ数量に係る全脂粉乳向け

指定団体	7月		8月		4ー8月累計	
	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %	トン	前年同月比 %
北海道	0	―	0	―	0	―
東北生乳販連	0	―	0	―	0	―
関東生乳販連	0	―	0	―	0	―
大島・八丈島	0	―	0	―	0	―
関東合計	0	―	0	―	0	―
北陸酪連	0	―	0	―	0	―
東海酪連	0	―	0	―	0	―
近畿生乳販連	0	―	0	―	0	―
中国生乳販連	0	―	0	―	0	―
四国生乳販連	0	―	0	―	0	―
九州生乳販連	0	―	0	―	0	―
都府県	0	―	0	―	0	―
合　計	0	―	0	―	0	―

注）この速報は、キロ（kg）で報告いただいた数量をトンに直して小数点以下を四捨五入した数値となっておりますので、
合計が一致していないことがあります。予めご了承下さい。

2. 計画生産の取り組み状況

単位：t

	供給目標数量			実績数量													計画生産残量
	①	販売基準数量	特別対策数量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計②	③=①−②
北海道	3,367,717	3,126,991	240,726	275,176	289,190	282,726	283,624	280,236								1,410,952	1,956,765
前年比(%)	98.5	97.7	109.5	98.9	98.8	99.2	98.4	99.3								98.9	98.1
東　北	676,575	666,449	10,126	58,085	59,909	56,404	56,961	55,027								286,385	390,190
前年比(%)	98.6	98.1	147.8	97.8	97.4	97.0	97.7	96.6								97.3	99.5
関　東	1,300,161	1,271,255	28,906	111,819	115,308	108,466	108,020	102,474								546,087	754,074
前年比(%)	98.8	97.9	173.7	95.3	95.5	96.6	97.4	95.7								96.1	100.9
北　陸	129,556	128,484	1,072	11,130	11,404	10,583	10,509	9,890								53,515	76,041
前年比(%)	98.6	97.8		96.2	94.8	93.9	94.3	94.0								94.7	101.6
東　海	471,395	457,583	13,812	40,774	41,961	39,692	39,609	37,415								199,452	271,943
前年比(%)	99.5	97.9	228.2	96.4	96.1	96.0	97.6	95.1								96.2	102.1
近　畿	226,357	226,357	0	20,618	20,941	19,604	19,411	18,166								98,741	127,616
前年比(%)	97.8	97.8		100.5	99.5	99.6	101.2	99.1								100.0	96.1
中　国	324,330	316,647	7,683	28,350	29,090	27,030	26,714	25,688								136,872	187,458
前年比(%)	98.8	97.9	159.7	96.8	97.3	96.6	97.6	98.3								97.3	99.8
四　国	160,278	159,184	1,094	13,910	14,104	13,009	12,584	11,985								65,592	94,686
前年比(%)	98.6	97.9		94.7	94.6	93.8	96.1	96.5								95.1	101.2
九　州	733,576	728,563	5,013	66,230	66,801	61,115	58,894	56,993								310,033	423,543
前年比(%)	98.7	98.0		99.4	98.6	97.1	98.5	98.7								98.5	98.9
都府県	4,022,228	3,954,522	67,706	350,916	359,518	335,903	332,703	317,638								1,696,677	2,325,551
前年比(%)	98.8	97.9	197.1	97.0	96.7	96.7	97.8	96.7								97.0	100.1
合　計	7,389,945	7,081,513	308,432	626,092	648,707	618,629	616,327	597,874								3,107,629	4,282,316
前年比(%)	98.6	97.8	121.3	97.8	97.7	97.8	98.1	97.9								97.8	99.2

注）実績数量は、受託販売乳量から全乳哺育、チーズ向け数量を控除した数量

3. 用途別販売実績の過去の推移

（1）実績数量　　単位：千 t

	総受託乳量 ①＝②＋⑨	販売乳量計 ②＝⑦＋⑧	飲用牛乳向 ③	はっ酵乳等向 ④	特定乳製品向 ⑤	生クリーム等向 ⑥	計画生産枠内 ⑦＝③＋④＋⑤＋⑥	チーズ向 ⑧	全　乳 哺育向 ⑨
13年度	**7,890.3**	**7,890.2**	**4,346.0**	**329.6**	**2,088.9**	**821.1**	**7,585.6**	**304.6**	**0.1**
14年度	**7,989.7**	**7,989.6**	**4,473.4**	**379.7**	**2,046.8**	**806.2**	**7,706.2**	**283.4**	**0.1**
15年度	**8,041.5**	**8,041.5**	**4,428.2**	**385.4**	**2,114.3**	**807.9**	**7,735.8**	**305.7**	**0.1**
16年度	**7,931.0**	**7,930.9**	**4,285.3**	**406.2**	**2,094.3**	**835.6**	**7,621.4**	**309.5**	**0.1**
17年度	**7,946.1**	**7,946.1**	**4,120.4**	**422.5**	**2,180.4**	**892.3**	**7,615.8**	**330.3**	**0.1**
18年度	**7,746.7**	**7,746.6**	**3,934.6**	**491.1**	**2,032.6**	**949.7**	**7,408.0**	**338.6**	**0.1**
17.8	663.8	663.8	344.3	37.6	180.7	73.1	635.8	28.0	0.0
9	643.1	643.1	372.5	35.0	133.5	75.3	616.3	26.8	0.0
10	660.1	660.1	364.0	35.6	155.2	75.7	630.5	29.7	0.0
11	636.6	636.6	335.9	33.6	162.4	76.4	608.2	28.4	0.0
12	661.5	661.5	319.3	32.9	199.7	83.0	634.9	26.5	0.0
1	670.8	670.8	323.7	33.8	215.7	70.0	643.2	27.7	0.0
2	614.5	614.5	307.0	32.2	181.5	67.5	588.2	26.3	0.0
3	678.4	678.4	319.8	37.3	214.5	78.5	650.0	28.3	0.0
18.4	668.6	668.6	324.1	39.1	201.1	75.7	640.0	28.6	0.0
5	693.7	693.7	341.9	41.5	202.1	78.7	664.2	29.5	0.0
6	662.3	662.3	349.0	41.2	166.7	75.8	632.6	29.7	0.0
7	657.6	657.6	343.6	42.7	163.2	79.0	628.5	29.1	0.0
8	640.2	640.1	331.1	43.8	158.2	78.5	611.5	28.7	0.0
9	621.2	621.2	358.2	41.9	114.7	78.9	593.6	27.6	0.0
10	634.1	634.1	346.8	42.6	136.7	79.9	606.0	28.1	0.0
11	610.0	610.0	324.5	40.2	136.9	81.2	582.8	27.2	0.0
12	638.4	638.4	304.3	38.4	181.7	87.3	611.7	26.7	0.0
1	654.0	654.0	308.6	39.7	202.5	75.6	626.4	27.6	0.0
2	599.2	599.2	294.8	37.4	167.9	72.8	573.0	26.2	0.0
3	667.3	667.3	307.6	42.9	200.8	86.3	637.6	29.7	0.0
19.4	655.7	655.7	307.8	42.5	194.9	80.9	626.1	29.6	0.0
5	680.2	680.2	332.7	44.5	188.7	82.8	648.7	31.5	0.0
6	648.7	648.7	336.4	43.5	158.4	80.3	618.6	30.0	0.0
7	648.3	648.3	327.0	45.1	159.5	84.7	616.3	31.9	0.0
8	629.9	629.9	321.6	45.9	146.0	84.3	597.9	32.1	0.0

（2）前年同月比　　単位：％

	総受託乳量 ①＝②＋⑨	販売乳量計 ②＝⑦＋⑧	飲用牛乳向 ③	はっ酵乳等向 ④	特定乳製品向 ⑤	生クリーム等向 ⑥	計画生産枠内 ⑦＝③＋④＋⑤＋⑥	チーズ向 ⑧	全　乳 哺育向 ⑨
13年度	**99.4**	**99.4**	**97.5**	**123.1**	**98.4**	**102.8**	**99.2**	**104.1**	**83.6**
14年度	**101.3**	**101.3**	**102.9**	**115.2**	**98.0**	**98.2**	**101.6**	**93.1**	**78.7**
15年度	**100.6**	**100.6**	**99.0**	**101.5**	**103.3**	**100.2**	**100.4**	**107.8**	**83.3**
16年度	**98.6**	**98.6**	**96.8**	**105.4**	**99.1**	**103.4**	**98.5**	**101.3**	**105.0**
17年度	**100.2**	**100.2**	**96.2**	**104.0**	**104.1**	**106.8**	**99.9**	**106.7**	**100.0**
18年度	**97.5**	**97.5**	**95.5**	**116.2**	**93.2**	**106.4**	**97.3**	**102.5**	**87.5**
17.8	100.0	100.0	95.9	104.9	103.6	108.0	99.8	102.9	100.0
9	101.1	101.1	97.3	103.8	105.4	111.5	100.9	104.0	100.0
10	101.9	101.9	98.9	102.0	106.1	105.6	101.6	109.6	100.0
11	102.4	102.4	96.2	103.1	114.3	106.9	102.2	107.7	100.0
12	101.6	101.6	95.6	103.1	108.8	106.0	101.2	112.9	100.0
1	101.3	101.3	96.4	103.9	106.9	105.2	101.0	107.8	100.0
2	100.7	100.7	95.6	106.5	106.6	104.6	100.3	110.8	100.0
3	99.2	99.2	94.9	106.5	100.3	107.4	98.7	111.6	100.0
18.4	99.6	99.6	95.2	110.6	101.2	107.2	99.2	109.8	100.0
5	99.7	99.7	94.6	112.8	102.8	106.0	99.3	109.4	100.0
6	98.6	98.6	94.9	116.5	98.2	106.3	98.2	108.3	100.0
7	96.9	96.9	94.4	114.7	94.8	102.9	96.7	102.9	88.8
8	96.4	96.4	96.1	116.3	87.6	107.3	96.2	102.4	82.6
9	96.6	96.6	96.1	119.7	85.9	104.8	96.3	102.9	82.6
10	96.1	96.1	95.3	119.7	88.1	105.5	96.1	94.6	82.6
11	95.8	95.8	96.6	119.7	84.3	106.4	95.8	96.0	82.6
12	96.5	96.5	95.3	116.6	91.0	105.2	96.3	100.7	82.6
1	97.5	97.5	95.3	117.5	93.9	108.1	97.4	99.7	82.6
2	97.5	97.5	96.0	116.2	92.5	107.8	97.4	99.9	82.6
3	98.4	98.4	96.2	115.1	93.6	110.0	98.1	104.6	82.6
19.4	98.1	98.1	95.0	108.7	96.9	106.9	97.8	103.4	82.6
5	98.1	98.1	97.3	107.2	93.4	105.2	97.7	107.0	82.6
6	97.9	97.9	96.4	105.7	95.0	105.9	97.8	101.2	82.6
7	98.6	98.6	95.2	105.5	97.7	107.2	98.1	109.7	93.0
8	98.4	98.4	97.1	104.9	92.3	107.5	97.8	111.9	103.4

資料：中央酪農会議「用途別販売実績」

4. 生乳生産量及び用途別処理量の推移（全国）

単位：千ﾄﾝ、%

区分	生乳生産量		用途別処理量											
			牛乳等向け		うち業務用		乳製品向け		うちチーズ向け		うち生クリーム向け		その他	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
13年度	8,311.8	98.8	4,903.3	98.0	ー	ー	3,316.6	100.3	ー	ー	ー	ー	92.0	88.4
14年度	8,380.0	100.8	5,046.0	102.9	ー	ー	3,245.4	97.9	ー	ー	ー	ー	88.5	95.5
15年度	8,405.0	100.3	5,018.0	ー	287.4	ー	3,301.7	ー	ー	ー	ー	ー	85.3	96.4
16年度	8,284.7	98.6	4,902.0	97.7	302.2	105.2	3,301.4	100.0	ー	ー	ー	ー	81.3	95.3
17年度	8,291.5	100.1	4,737.7	96.6	304.7	100.8	3,472.1	105.2	ー	ー	ー	ー	81.7	100.5
18年度	8,085.8	97.5	4,617.5	97.5	307.1	100.8	3,388.4	97.6	90.0	ー	236.8	ー	79.9	97.7
17.8	691.8	99.8	395.5	96.6	25.2	99.8	289.2	104.5	ー	ー	ー	ー	7.1	99.0
9	670.9	100.9	423.7	97.5	28.1	100.1	240.9	107.6	ー	ー	ー	ー	6.3	96.6
10	688.1	101.6	416.3	98.8	27.4	105.4	265.1	106.6	ー	ー	ー	ー	6.7	91.2
11	664.5	102.2	386.1	96.7	28.5	105.9	272.1	111.3	ー	ー	ー	ー	6.3	95.8
12	690.5	101.5	370.5	96.5	29.4	105.7	313.1	108.0	ー	ー	ー	ー	6.8	101.6
1	699.6	101.1	373.2	97.0	25.8	101.3	319.5	106.3	ー	ー	ー	ー	6.9	101.5
2	642.0	100.8	355.6	96.7	22.7	94.6	280.0	106.5	ー	ー	ー	ー	6.4	99.5
3	708.9	99.2	374.6	96.4	28.7	108.5	326.6	102.1	ー	ー	ー	ー	7.7	119.5
18.4	698.2	99.7	380.1	97.3	26.1	110.4	311.4	103.0	ー	ー	ー	ー	6.7	93.0
5	723.0	99.5	399.5	96.0	22.9	103.5	316.6	104.1	ー	ー	ー	ー	6.9	102.9
6	689.9	98.5	404.5	96.5	22.1	105.7	278.8	101.5	ー	ー	ー	ー	6.6	100.6
7	687.1	97.1	404.7	97.2	23.7	106.4	275.6	97.0	ー	ー	ー	ー	6.8	95.2
8	668.5	96.6	389.4	98.5	24.7	98.0	272.4	94.2	ー	ー	ー	ー	6.8	95.1
9	649.3	96.8	414.6	97.8	26.6	94.6	228.0	94.6	ー	ー	ー	ー	6.7	106.4
10	662.2	96.2	405.8	97.5	28.1	102.9	249.8	94.2	ー	ー	ー	ー	6.7	99.5
11	637.9	96.0	382.3	99.0	28.5	100.0	249.0	91.5	ー	ー	ー	ー	6.5	103.6
12	667.5	96.7	361.3	97.5	29.2	99.0	299.6	95.7	ー	ー	ー	ー	6.6	96.9
1	681.9	97.5	363.0	97.3	24.2	94.0	312.4	97.7	29.6	ー	77.9	ー	6.5	94.8
2	624.5	97.3	346.4	97.4	23.4	103.3	271.9	97.1	28.4	ー	74.8	ー	6.2	97.4
3	696.1	98.2	366.1	97.7	27.6	96.1	323.0	98.9	32.0	ー	84.1	ー	6.9	89.8
19.4	682.7	97.8	363.5	95.6	25.7	98.3	312.3	100.3	31.9	ー	78.8	ー	6.9	102.7
5	708.5	98.0	391.6	98.0	24.8	108.2	310.3	98.0	34.0	ー	79.7	ー	6.5	94.5
6	674.4	97.8	391.8	96.9	22.1	100.0	275.9	99.0	32.5	ー	82.8	ー	6.7	101.9
7	676.5	98.5	387.4	95.7	24.2	102.2	282.0	102.3	33.6	ー	87.0	ー	7.0	103.2

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注）牛乳等向け処理量、乳製品向け処理量は15年度以降新しい調査定義に基づいており、14年度以前の数値とは接続しない。

5. 都道府県別の生乳生産量

単位：ﾄﾝ、%

	17年度 計	前年比	18年度 計	前年比	18年度 8月	前年比	9月	前年比	10月	前年比	11月	前年比	12月	前年比	1月	前年比	2月	前年比	3月	前年比	19年度 4月	前年比	5月	前年比	6月	前年比	7月	前年比
北海道	3,865,972	101.8	3,824,152	98.9	321,359	96.3	309,338	95.5	310,930	95.0	297,222	94.8	312,121.0	95.7	318,430.0	97.1	289,432	97.7	319,528.0	98.6	313,645.0	99.2	329,697.0	99.4	320,148.0	98.9	325,330.0	99.4
青　森	83,614	100.3	83,008	99.3	6,528	95.3	6,349	93.4	6,619	94.5	6,444	95.5	6,845.0	97.0	6,841.0	97.6	6,429	98.2	6,937.0	96.1	6,672.0	96.0	6,877.0	96.4	6,545.0	99.8	6,702.0	101.3
岩　手	264,333	98.7	257,292	97.3	20,616	97.1	20,299	98.1	20,577	97.9	19,755	97.8	20,837.0	97.3	20,399.0	95.9	18,665	95.6	20,816.0	94.9	20,617.0	97.7	21,362.0	98.8	20,134.0	97.5	20,666.0	98.5
宮　城	160,807	98.0	157,478	97.9	12,372	96.2	12,117	96.7	12,500	97.1	11,912	96.0	12,491.0	97.7	12,864.0	98.0	11,775	97.4	13,214.0	97.6	12,731.0	96.5	13,386.0	98.3	12,583.0	98.4	12,630.0	99.4
秋　田	37,849	98.5	37,609	99.4	2,943	97.9	2,913	97.5	2,852	92.7	2,766	93.5	2,951.0	96.2	3,013.0	97.4	2,739	95.4	3,078.0	94.2	2,981.0	91.8	3,100.0	92.1	2,912.0	92.1	2,961.0	94.4
山　形	99,297	100.6	97,746	98.4	7,895	100.9	7,706	99.8	7,880	100.0	7,526	99.6	7,841.0	99.9	7,767.0	98.0	7,253	99.3	8,133.0	98.2	8,026.0	100.3	8,317.0	99.0	7,792.0	98.1	7,805.0	97.0
福　島	119,303	96.5	118,626	99.4	9,374	97.8	8,965	95.5	9,249	96.1	9,001	95.8	9,533.0	97.4	9,824.0	100.9	8,880	99.1	9,839.0	96.3	9,622.0	98.6	10,230.0	100.3	9,413.0	96.8	9,261.0	96.0
東北計	765,203	98.6	751,759	98.2	59,728	97.3	58,349	97.1	59,677	97.1	57,404	96.8	60,498	97.6	60,708	99.8	55,741	97.3	62,017	96.2	60,649	97.4	63,272	98.3	59,379	97.6	60,025	98.2
茨　城	194,047	100.4	192,150	99.0	14,977	98.7	14,724	99.1	15,225	99.3	14,942	99.7	15,078.0	97.1	15,946.0	100.3	14,351	97.1	16,078.0	95.1	15,732.0	95.0	16,143.0	95.2	15,015.0	94.3	14,972.0	96.1
栃　木	330,366	98.7	331,511	100.3	27,030	99.7	26,191	100.5	26,857	99.4	25,935	98.8	26,331.0	96.8	27,499.0	99.0	25,068	96.7	28,273.0	96.0	27,520.0	94.9	28,347.0	94.5	26,627.0	96.6	27,089.0	97.5
群　馬	273,531	99.3	277,458	101.4	22,917	101.5	22,165	101.3	22,763	100.4	22,205	101.2	22,984.0	101.0	24,083.0	104.0	21,880	101.4	25,048.0	101.9	24,072.0	99.8	24,973.0	100.7	23,711.0	101.4	23,788.0	100.9
埼　玉	107,007	97.5	100,436	93.9	7,578	96.7	7,209	95.8	7,471	96.6	7,213	95.4	7,437.0	95.4	7,882.0	97.9	7,182	95.0	8,098.0	92.6	7,804.0	93.1	7,964.0	90.6	7,517.0	94.0	7,552.0	96.7
千　葉	301,852	99.7	297,916	98.7	22,938	96.0	22,704	97.9	23,595	97.5	22,842	97.3	23,789.0	98.2	24,376.0	98.9	22,586	98.7	24,951.0	97.0	24,344.0	95.5	24,751.0	96.6	23,357.0	97.7	23,373.0	98.0
東　京	15,544	96.0	15,565	100.1	1,158	99.1	1,139	99.8	1,162	97.9	1,123	97.7	1,168.0	98.3	1,176.0	95.2	1,161	99.7	1,302.0	98.6	1,233.0	95.9	1,280.0	97.3	1,283.0	103.4	1,208.0	99.8
神奈川	85,288	98.4	80,801	94.7	5,794	96.3	5,463	94.9	5,669	95.1	5,577	94.5	5,924.0	95.1	6,140.0	95.2	5,729	95.4	6,491.0	95.6	6,266.0	94.3	6,397.0	94.3	5,972.0	94.8	5,828.0	95.3
山　梨	26,825	87.8	24,428	91.1	1,808	94.3	1,731	91.6	1,810	93.7	1,762	96.2	1,837.0	99.5	1,731.0	89.2	1,591	88.1	1,670.0	84.5	1,757.0	88.6	1,961.0	95.2	1,820.0	95.5	1,770.0	92.0
静　岡	111,300	97.9	109,164	98.1	8,916	103.1	8,458	100.9	8,769	99.8	8,605	100.0	8,996.0	99.4	8,912.0	94.9	8,482	96.3	9,332.0	93.7	9,191.0	94.0	9,489.0	93.5	8,953.0	94.6	8,712.0	95.8
関東計	1,445,760	98.8	1,429,429	98.9	113,116	99.3	109,784	99.5	113,321	99.1	110,204	98.7	113,544	98.1	117,745	99.3	108,030	97.7	121,243	96.7	117,919	95.7	121,305	95.9	114,255	97.1	114,292	97.7
新　潟	82,774	96.8	78,174	94.4	6,145	100.1	6,000	100.4	6,183	99.3	5,879	96.9	6,157.0	98.3	6,319.0	98.1	5,818	96.2	6,490.0	95.7	6,379.0	97.8	6,520.0	95.8	6,095.0	95.1	6,063.0	94.6
富　山	20,433	102.5	19,340	94.7	1,500	98.8	1,644	110.6	1,572	99.6	1,495	98.2	1,537.0	98.6	1,530.0	97.8	1,400	95.4	1,543.0	91.5	1,491.0	88.8	1,544.0	87.5	1,451.0	83.9	1,479.0	87.8
石　川	31,435	97.7	30,020	95.5	2,243	91.5	2,274	94.2	2,331	93.5	2,356	97.4	2,491.0	99.1	2,537.0	100.1	2,364	102.3	2,643.0	99.4	2,593.0	98.5	2,624.0	97.0	2,398.0	95.5	2,347.0	96.1
福　井	12,023	97.5	11,341	94.3	854	96.7	828	95.6	829	91.1	797	90.0	848.0	93.7	868.0	92.9	787	89.9	909.0	92.8	892.0	91.4	936.0	92.1	875.0	91.4	892.0	95.2
北陸計	146,665	97.8	138,875	94.7	10,742	97.7	10,746	100.0	10,915	97.4	10,527	96.6	11,033	98.2	11,254	98.1	10,369	96.9	11,585	95.7	11,355	96.2	11,624	94.6	10,819	93.2	10,781	94.0
長　野	146,812	99.1	143,930	98.0	11,086	98.7	10,732	100.0	10,958	98.5	10,333	97.2	10,692.0	99.2	10,886.0	99.3	9,820	96.9	10,732.0	95.2	11,277.0	100.3	11,620.0	100.6	11,210.0	98.5	11,272.0	99.4
岐　阜	64,198	98.0	61,054	95.1	4,737	96.3	4,576	97.8	4,785	98.4	4,640	99.0	4,788.0	98.6	4,854.0	97.9	4,501	96.4	5,038.0	96.1	4,919.0	96.8	5,037.0	96.3	4,797.0	97.0	4,870.0	97.7
愛　知	253,605	99.6	248,986	98.2	20,476	103.0	19,854	103.6	20,516	100.4	19,325	96.4	19,845.0	95.0	19,894.0	91.9	18,190	89.2	20,571.0	89.9	20,795.0	91.9	21,135.0	90.8	19,824.0	91.8	19,606.0	93.0
三　重	61,344	99.4	59,578	97.1	4,609	100.5	4,499	99.3	4,735	99.2	4,652	100.6	4,782.0	100.5	4,890.0	98.5	4,396	93.7	4,832.0	90.7	4,650.0	89.0	5,001.0	94.6	4,689.0	94.2	4,606.0	96.4
東海計	525,959	99.2	513,548	97.6	40,908	100.7	39,661	101.4	40,994	99.5	38,950	97.4	40,107	97.2	40,524	95.3	36,907	92.6	41,173	92.1	41,641	94.3	42,793	94.4	40,520	94.5	40,354	95.7
滋　賀	30,824	94.7	29,912	97.0	2,255	95.2	2,184	95.5	2,230	93.7	2,212	96.6	2,333.0	97.5	2,321.0	95.8	2,111	93.3	2,409.0	94.4	2,390.0	97.5	2,434.0	97.8	2,245.0	96.3	2,316.0	99.6
京　都	37,846	103.5	37,144	98.1	2,861	97.9	2,800	97.7	2,947	98.0	2,989	100.2	3,168.0	101.1	3,300.0	104.8	3,142	107.4	3,549.0	105.4	3,495.0	106.2	3,537.0	106.9	3,309.0	107.8	3,237.0	105.0
大　阪	18,900	98.1	17,058	90.3	1,255	98.5	1,215	99.4	1,232	98.2	1,212	99.8	1,318.0	103.4	1,357.0	104.5	1,252	102.0	1,385.0	99.2	1,348.0	98.0	1,416.0	98.7	1,315.0	97.0	1,297.0	96.5
兵　庫	147,640	97.6	140,888	95.4	10,444	93.5	10,314	96.5	10,703	96.7	10,467	96.4	10,971.0	97.3	11,217.0	96.9	10,472	97.4	11,899.0	97.8	11,773.0	99.2	12,021.0	99.1	11,078.0	97.3	10,963.0	99.1
奈　良	35,102	97.1	34,065	97.0	2,675	94.8	2,579	96.2	2,693	97.1	2,624	98.6	2,709.0	96.8	2,755.0	97.0	2,531	96.6	2,883.0	97.6	2,879.0	97.6	2,959.0	97.6	2,778.0	96.3	2,761.0	98.3
和歌山	3,229	93.5	2,912	90.2	330	140.4	327	142.2	358	131.1	351	118.6	355.0	112.7	393.0	117.3	350	105.1	373.0	107.5	375.0	103.6	410.0	106.5	392.0	104.3	362.0	100.8
近畿計	273,541	97.9	261,979	95.8	19,820	95.3	19,419	97.2	20,163	97.1	19,855	97.8	20,854	98.4	21,343	98.7	19,858	98.7	22,498	98.7	22,260	99.9	22,777	100.0	21,117	98.7	20,936	99.8
鳥　取	63,641	104.4	64,387	101.2	5,102	93.8	4,990	94.1	5,184	93.8	5,057	94.6	5,338.0	97.0	5,537.0	97.8	5,174	98.8	5,809.0	102.7	5,678.0	99.2	5,832.0	99.6	5,438.0	99.7	5,429.0	102.0
島　根	66,362	101.6	64,646	97.4	4,993	95.8	4,945	97.1	5,152	96.1	4,979	95.6	5,243.0	97.7	5,463.0	99.0	5,001	97.5	5,667.0	99.1	5,567.0	98.2	5,636.0	97.2	5,421.0	100.3	5,156.0	98.6
岡　山	133,462	97.5	128,133	96.0	9,672	98.6	9,639	101.6	9,965	100.0	9,528	97.6	9,888.0	96.9	10,187.0	96.7	9,463	96.0	10,589.0	96.3	10,390.0	94.0	10,793.0	95.3	10,026.0	95.1	9,938.0	97.0
広　島	71,571	97.0	68,703	96.0	5,760	100.5	5,648	102.5	5,817	101.8	5,592	100.3	5,787.0	101.7	6,051.0	104.3	5,488	103.1	6,118.0	102.4	5,914.0	99.9	6,091.0	100.2	5,678.0	97.1	5,677.0	96.0
山　口	26,675	100.1	25,914	97.1	1,915	95.0	1,924	98.0	2,009	98.7	1,935	96.4	2,032.0	94.8	2,110.0	96.8	1,974	96.1	2,191.0	94.9	2,097.0	90.5	2,292.0	98.8	1,987.0	92.5	1,933.0	93.9
中国計	361,711	99.5	351,783	97.3	27,442	93.3	27,146	99.2	28,127	98.3	27,091	97.1	28,288	97.9	29,348	98.8	27,100	98.2	30,374	98.7	29,646	96.6	30,644	97.6	28,550	97.1	28,133	97.8
徳　島	52,324	98.0	49,997	95.6	3,677	94.1	3,633	98.7	3,712	96.9	3,587	95.1	3,782.0	96.5	3,988.0	97.1	3,702	96.0	4,141.0	96.4	4,103.0	97.8	4,203.0	98.2	3,916.0	97.4	3,800.0	98.0
香　川	43,994	96.3	42,432	96.4	3,233	95.2	3,214	97.4	3,263	94.9	3,199	96.3	3,397.0	100.4	3,321.0	94.7	3,062	93.6	3,427.0	92.7	3,330.0	91.5	3,422.0	91.5	3,173.0	90.7	3,096.0	92.1
愛　媛	53,049	99.8	52,427	98.8	3,764	90.2	3,678	90.8	3,841	89.8	3,800	89.2	4,074.0	91.0	4,189.0	89.5	3,890	90.1	4,416.0	91.3	4,317.0	92.6	4,346.0	92.9	3,987.0	92.4	3,881.0	96.5
高　知	28,921	100.2	28,693	99.2	2,180	94.9	2,137	95.0	2,245	93.0	2,225	92.1	2,349.0	91.9	2,397.0	90.7	2,238	89.5	2,543.0	93.3	2,505.0	93.8	2,500.0	95.3	2,273.0	91.8	2,132.0	93.1
四国計	178,288	98.5	173,549	97.3	12,854	93.3	12,662	95.3	13,061	93.6	12,811	93.1	13,602	94.9	13,895	93.0	12,892	92.4	14,527	93.4	14,255	94.0	14,471	94.4	13,349	93.3	12,909	95.3
福　岡	124,807	98.8	122,825	98.4	8,800	91.3	8,868	93.6	9,297	93.8	9,159	95.3	9,693.0	98.5	10,057.0	99.2	9,401	99.5	10,807.0	104.1	10,127.0	99.1	10,335.0	99.8	9,485.0	99.2	9,151.0	100.4
佐　賀	34,685	98.2	32,611	94.0	2,250	93.5	2,219	94.9	2,325	94.1	2,318	95.8	2,453.0	97.0	2,514.0	94.9	2,326	93.2	2,698.0	94.9	2,540.0	91.7	2,569.0	90.4	2,340.0	93.0	2,231.0	94.6
長　崎	65,278	102.3	65,823	100.8	5,013	98.7	4,986	97.6	5,101	97.0	5,014	97.5	5,357.0	98.5	5,413.0	100.0	4,904	93.8	5,398.0	93.5	5,629.0	97.6	5,632.0	96.1	5,220.0	94.8	5,050.0	96.3
熊　本	265,534	100.0	270,982	102.1	20,475	91.3	20,107	93.1	20,927	92.5	20,465	92.8	21,603.0	95.1	22,075.0	96.6	20,810	98.5	23,810.0	111.7	23,345.0	98.8	23,491.0	99.4	21,624.0	98.1	21,020.0	99.9
大　分	104,987	104.1	105,875	100.8	8,044	91.6	8,015	94.7	8,596	96.5	8,394	96.7	8,695.0	96.9	8,671.0	95.3	7,956	97.0	8,884.0	116.5	8,785.0	100.7	9,016.0	99.4	8,430.0	97.5	8,101.0	97.0
宮　崎	111,477	98.1	109,395	98.1	7,974	92.1	7,805	93.5	8,310	94.9	8,255	95.4	8,811.0	97.5	8,917.0	96.5	8,425	98.2	9,606.0	107.3	9,508.0	100.0	9,321.0	97.6	8,577.0	97.4	8,182.0	98.7
鹿児島	98,200	102.3	97,674	99.5	7,265	92.9	7,198	94.6	7,539	97.7	7,361	96.7	7,955.0	99.9	8,144.0	98.6	7,740	97.9	9,041.0	97.3	8,566.0	98.1	8,525.0	95.8	7,716.0	95.4	7,252.0	95.7
九州計	804,968	100.5	805,185	100.0	59,821	92.3	59,198	94.1	62,095	94.6	60,966	95.0	64,567	97.1	65,791	97.2	61,562	97.8	70,244	106.1	68,500	98.8	68,889	98.1	63,392	97.3	60,987	98.4
都府県	4,502,095	99.1	4,426,107	98.3	344,431	97.2	336,965	98.0	348,353	97.5	337,808	97.1	352,493	97.6	360,608	97.8	332,459	96.9	373,661	97.8	366,225	96.6	375,775	96.8	351,381	96.7	348,417	97.6
沖　縄	38,659	97.7	39,085	101.1	2,728	89.8	2,972	101.0	2,901	92.6	2,827	93.3	2,847.0	94.1	2,842.0	93.3	2,583	95.5	2,878.0	96.9	2,823.0	97.4	3,015.0	97.8	2,899.0	98.9	2,711.0	96.2
合　計	8,406,726	100.3	8,286,101	98.6	668,518	96.6	649,275	96.8	662,184	96.2	637,857	96.0	667,461	96.7	681,880	97.5	624,474	97.3	696,067	98.2	682,693	97.8	708,487	98.0	674,428	97.8	676,458	98.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

6. 飲用牛乳等生産量の推移

単位：千kl、%

区分	飲用牛乳合計	前年比	牛乳	前年比	うち業務用	前年比	うち学校給食用	前年比	加工乳・成分調整牛乳	前年比	うち業務用	前年比	うち成分調整牛乳	前年比	乳飲料	前年比	はっ酵乳	前年比	乳酸菌飲料	前年比
13年度	4,402,203.0	96.4	3,840,122.0	97.9	—	—	—	—	562,081.0	87.6	—	—	—	—	1,225,693.0	102.3	698,142.0	102.0	174,697.0	100.4
14年度	4,430,271.0	100.6	3,976,636.0	103.6	—	—	—	—	453,635.0	80.7	—	—	—	—	1,173,306.0	95.7	798,915.0	114.4	185,271.0	106.1
15年度	4,478,913.0	—	4,020,871.0	—	375,718.0	—	—	—	458,042.0	—	17,083.0	—	164,809.0	—	1,174,909.0	100.1	793,335.0	99.3	180,076.0	97.2
16年度	4,404,370.0	98.3	3,926,680.0	97.7	288,011.0	104.5	—	—	477,690.0	104.3	16,420.0	96.1	192,855.0	117.0	1,185,274.0	100.9	782,036.0	98.6	172,662.0	95.9
17年度	4,261,231.0	96.8	3,793,862.0	96.6	290,058.0	100.7	—	—	467,369.0	97.8	18,094.0	110.2	207,604.0	107.6	1,207,946.0	101.9	801,630.0	102.5	172,278.0	99.8
18年度	4,115,169.0	96.6	3,678,835.0	97.0	294,683.0	101.6	—	—	436,334.0	93.4	22,916.0	126.6	198,418.0	95.6	1,259,816.0	104.3	849,468.0	106.0	169,784.0	98.6
17.8	356,461.0	98.0	312,442.0	97.8	24,004.0	101.2	—	—	44,019.0	99.3	1,583.0	120.9	19,746.0	114.8	112,001.0	102.9	66,867.0	104.0	15,415.0	97.4
9	383,173.0	97.0	340,186.0	96.6	26,753.0	98.9	—	—	42,987.0	100.4	1,535.0	117.5	18,972.0	111.7	112,993.0	101.0	67,192.0	104.6	14,659.0	103.0
10	373,780.0	99.0	333,017.0	98.6	26,041.0	104.4	—	—	40,763.0	101.9	1,462.0	110.2	18,229.0	112.7	109,282.0	107.4	66,029.0	100.1	14,393.0	107.3
11	349,695.0	96.5	312,900.0	96.4	27,351.0	105.6	—	—	36,795.0	97.9	1,529.0	109.7	16,380.0	107.7	95,728.0	99.9	60,743.0	98.7	13,898.0	105.5
12	337,447.0	97.0	301,507.0	96.7	28,319.0	106.0	—	—	35,940.0	99.0	1,742.0	104.2	16,150.0	110.1	91,809.0	101.5	59,131.0	98.9	12,363.0	100.4
1	334,475.0	97.4	298,671.0	97.0	24,488.0	102.1	—	—	35,804.0	100.5	1,291.0	99.8	16,645.0	112.3	89,757.0	102.2	62,938.0	105.4	11,597.0	102.4
2	319,186.0	97.0	286,404.0	96.4	21,553.0	94.3	—	—	32,782.0	101.9	1,323.0	111.6	14,725.0	110.0	83,682.0	101.0	62,650.0	101.6	10,318.0	95.0
3	335,854.0	97.2	299,147.0	97.0	27,499.0	109.4	—	—	36,707.0	99.0	1,912.0	110.3	16,180.0	102.7	94,373.0	102.1	69,615.0	96.6	12,573.0	92.1
18.4	336,938.0	96.1	302,315.0	96.9	24,909.0	110.1	—	—	34,623.0	89.9	1,473.0	99.4	15,450.0	94.6	96,739.0	99.5	70,577.0	95.6	16,442.0	106.8
5	356,264.0	96.0	319,193.0	96.4	21,770.0	105.2	—	—	37,071.0	93.2	1,695.0	123.5	16,115.0	93.0	104,947.0	102.1	76,740.0	109.2	15,012.0	89.4
6	360,233.0	94.8	323,151.0	95.3	21,089.0	105.9	—	—	37,082.0	90.9	1,526.0	110.2	16,743.0	93.2	106,596.0	100.1	75,300.0	104.1	16,306.0	90.2
7	357,662.0	96.7	318,280.0	97.2	22,338.0	107.3	—	—	39,382.0	92.7	1,712.0	115.9	17,398.0	91.8	115,927.0	103.6	73,929.0	105.6	16,478.0	98.1
8	345,232.0	96.8	305,376.0	97.7	23,525.0	98.0	—	—	39,856.0	90.5	1,575.0	99.5	18,202.0	92.2	122,019.0	108.9	71,212.0	106.5	16,328.0	105.9
9	365,494.0	95.4	327,563.0	96.3	25,219.0	94.3	—	—	37,931.0	88.2	1,716.0	111.8	17,349.0	91.4	117,011.0	103.6	72,590.0	108.0	12,975.0	88.5
10	365,980.0	97.9	327,476.0	98.3	27,134.0	104.2	—	—	38,504.0	94.5	1,792.0	122.6	17,670.0	96.9	115,676.0	105.9	74,822.0	113.3	13,291.0	92.3
11	339,445.0	97.1	303,995.0	97.2	27,150.0	99.3	—	—	35,450.0	96.3	1,835.0	120.0	16,129.0	98.5	102,250.0	106.8	65,982.0	108.6	13,338.0	96.0
12	324,680.0	96.2	290,737.0	96.4	28,047.0	99.0	—	—	33,943.0	94.4	1,966.0	112.9	15,453.0	95.7	95,032.0	103.5	62,478.0	105.7	11,788.0	95.3
1	325,573.0	97.3	290,639.0	97.3	23,675.0	96.7	31,868.0	—	34,934.0	97.6	2,424.0	187.8	16,481.0	99.0	94,696.0	105.5	65,995.0	104.9	11,521.0	99.3
2	311,607.0	97.6	279,443.0	97.6	23,034.0	106.9	36,665.0	—	32,164.0	98.1	2,422.0	183.1	15,183.0	103.1	88,846.0	106.2	65,910.0	105.2	11,644.0	112.9
3	326,061.0	97.1	290,667.0	97.2	26,793.0	97.4	25,044.0	—	35,394.0	96.4	2,780.0	145.4	16,245.0	100.4	100,077.0	106.0	73,933.0	106.2	14,661.0	116.6
19.4	325,092.0	96.5	289,620.0	95.8	24,515.0	98.4	27,760.0	—	35,472.0	102.5	2,621.0	177.9	16,216.0	105.0	104,099.0	107.6	70,879.0	100.4	14,234.0	86.6
5	351,826.0	98.8	314,306.0	98.5	23,924.0	109.9	40,387.0	—	37,520.0	101.2	2,815.0	166.1	17,439.0	108.2	110,585.0	105.4	75,163.0	97.9	16,339.0	108.8
6	349,271.0	97.0	311,851.0	96.5	21,359.0	101.3	40,445.0	—	37,420.0	100.9	2,119.0	138.9	17,755.0	106.0	114,567.0	107.5	73,988.0	98.3	16,760.0	102.8
7	344,890.0	96.4	305,886.0	96.1	23,063.0	103.2	25,784.0	—	39,004.0	99.0	2,014.0	117.6	18,948.0	108.9	121,039.0	104.4	72,678.0	98.3	16,714.0	101.4

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注）牛乳、加工乳・成分調整牛乳、飲用牛乳等生産量は15年度以降新しい調査定義に基づいており、14年度以前の数値とは接続しない。

7. 主要乳製品生産量の動向

単位：ﾄﾝ、%

区　分	バター	前年比	脱脂粉乳	前年比	クリーム	前年比	練乳類	前年比	全粉乳	前年比	チーズ	前年比	うち直消用ナチュラルチーズ	前年比	アイスクリーム	前年比	調整粉乳	前年比
13年度	83,172	104.1	177,855	96.3	85,695	107.2	39,483	96.6	17,456	97.0	116,362	96.5	14,159	96.8	106	107.6	34,006	98.2
14年度	79,598	95.7	178,905	100.6	92,100	107.5	39,879	101.0	17,021	97.5	118,779	102.1	13,448	95.0	102	96.7	36,876	108.4
15年度	81,566	102.5	184,372	103.1	87,762	95.3	40,797	102.3	15,010	88.2	119,342	100.5	13,773	102.4	104	101.5	36,427	98.8
16年度	80,555	98.8	182,656	99.1	82,888	94.4	42,714	104.7	14,659	97.7	119,496	100.1	12,104	87.9	113	108.4	35,269	96.8
17年度	85,225	105.8	189,733	103.9	83,301	100.5	40,268	94.3	14,523	99.1	123,170	103.1	13,941	115.2	120	106.3	31,225	88.5
18年度	78,001	91.5	176,931	93.3	96,922	116.4	43,317	107.6	13,882	95.6	124,159	100.8	16,240	116.5	132	110.5	29,740	95.2
17.8	7,165	110.5	15,400	105.6	6,385	90.2	3,265	92.3	777	56.9	9,388	103.5	1,118	112.9	12	113.3	2,136	89.8
9	5,006	105.9	11,844	103.9	6,692	93.0	2,022	92.9	852	102.1	10,329	107.8	1,231	114.9	11	101.3	1,719	54.7
10	5,897	106.8	13,742	104.8	6,994	89.1	2,464	101.3	1,019	90.7	10,875	106.5	1,320	126.2	10	95.6	2,722	97.9
11	6,099	113.8	14,741	111.7	7,503	91.1	3,226	132.9	1,266	116.5	11,308	105.8	1,238	110.9	10	103.2	2,987	100.2
12	7,626	115.0	18,960	109.0	8,877	91.3	3,618	98.6	853	79.7	10,740	99.0	1,232	126.3	8	106.8	2,779	86.2
1	8,778	110.9	18,487	108.7	6,670	94.8	3,808	88.6	1,827	96.4	9,605	104.3	1,217	123.9	7	104.6	2,232	74.1
2	7,454	109.1	15,800	106.6	6,386	93.1	3,013	78.9	1,179	119.0	9,348	105.9	1,171	133.8	7	107.7	3,077	108.0
3	8,460	99.0	18,607	102.9	7,487	95.5	4,091	82.2	1,472	102.6	10,570	97.3	1,099	94.8	11	130.7	2,714	91.2
18.4	7,977	97.8	17,034	99.8	7,562	114.1	3,919	105.0	1,417	106.1	11,191	99.6	1,339	128.7	11	122.5	2,736	86.7
5	8,050	104.4	16,689	101.7	7,761	115.2	4,433	109.7	1,404	86.9	9,600	97.9	1,268	127.9	12	114.4	2,745	117.6
6	6,721	99.4	14,732	103.5	7,345	117.4	3,850	100.5	624	61.1	10,046	97.9	1,323	121.2	12	99.9	2,510	94.4
7	6,044	95.1	13,538	93.7	7,426	111.1	3,112	101.5	1,423	109.1	10,166	104.8	1,289	113.9	12	100.8	2,780	102.5
8	6,040	84.3	13,269	86.2	7,360	115.3	2,843	87.1	1,260	162.2	9,547	101.7	1,305	116.7	12	100.1	1,700	79.6
9	4,198	83.9	10,455	88.3	7,565	113.0	2,039	100.8	748	87.7	10,432	101.0	1,334	108.4	12	107.8	2,485	144.6
10	5,139	87.2	12,212	88.9	8,296	118.6	3,039	123.4	824	80.9	11,244	103.4	1,502	113.8	11	109.4	2,698	99.1
11	5,053	82.9	12,547	85.1	8,596	114.6	3,129	97.0	807	63.7	12,037	106.4	1,481	119.7	11	115.6	2,794	93.5
12	6,562	86.0	17,273	91.1	9,852	111.0	4,184	115.6	809	94.8	11,102	103.4	1,444	117.2	10	121.1	2,718	97.8
1	8,011	91.3	17,418	94.2	8,012	120.1	4,394	115.4	1,703	93.2	8,683	90.4	1,191	97.9	9	124.2	2,287	102.5
2	6,422	86.1	14,439	91.4	7,880	123.4	3,940	130.7	1,489	126.3	9,018	96.5	1,279	109.2	8	115.3	2,106	68.5
3	7,784	92.0	17,325	93.1	9,268	123.8	4,435	108.4	1,374	93.3	11,094	105.0	1,484	135.1	12	110.7	2,182	80.4
19.4	7,661	96.0	16,991	99.7	8,326	110.1	3,994	101.9	1,322	93.3	11,412	102.0	1,455	108.7	11	105.0	2,858	104.5
5	7,361	91.4	16,017	96.0	8,280	106.7	4,439	100.1	1,249	89.0	9,866	102.8	1,397	110.1	12	98.1	2,534	92.3
6	6,279	93.4	14,005	95.1	7,969	108.5	3,910	101.6	706	113.0	10,367	103.2	1,520	114.9	12	101.1	2,827	112.6
7	5,893	97.5	13,486	99.6	8,205	110.5	3,432	110.3	1,209	85.0	10,031	98.7	1,452	112.6	12	96.8	2,432	87.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

8. 乳製品需給の動向

（1）脱脂粉乳

単位：千ｔ、％

	生産量	前年比	輸入売渡し	消費量	前年比	うち、通常消費量	前年比	うち、在庫対策実施量	過不足	在庫量 民間在庫量	前年比
13年度	177.9	96.3	13.8	170.0	90.1	170.0	90.1	0.0	21.6	75.0	140.6
14年度	178.9	100.6	0.0	173.1	101.8	173.1	101.8	0.0	5.8	80.8	107.7
15年度	184.4	103.1	0.0	172.0	99.3	172.0	99.3	0.0	12.4	93.2	115.4
16年度	182.7	99.1	0.0	187.9	109.3	166.7	96.3	22.3	-5.2	88.0	94.4
17年度	189.7	103.9	0.0	202.4	107.8	165.6	99.3	36.8	-12.7	75.3	85.6
18年度	177.0	93.3	3.3	187.6	92.7	156.4	94.4	31.2	-7.3	68.3	90.8
17.7	14.5	106.5	0.0	17.6	97.1	15.2	94.6	2.4	-3.2	83.3	89.6
8	15.4	105.6	0.0	17.1	101.7	14.3	96.5	2.7	-1.7	81.6	89.9
9	11.8	103.9	0.0	16.2	89.0	13.4	81.3	2.8	-4.3	77.3	92.0
10	13.7	104.8	0.0	16.1	116.6	13.6	112.6	2.5	-2.4	75.0	89.9
11	14.7	111.7	0.0	15.1	102.4	13.0	99.0	2.0	-0.3	74.6	91.2
12	19.0	109.0	0.0	16.3	100.4	14.1	100.2	2.2	2.7	77.3	93.1
1	18.5	108.7	0.0	14.4	105.4	12.5	113.7	1.9	4.1	81.4	94.2
2	15.8	106.6	0.0	15.5	112.1	12.1	100.3	3.4	0.3	81.6	93.5
3	18.6	102.9	0.0	25.0	143.2	15.4	104.9	9.6	-6.4	75.3	85.6
18.4	17.0	99.8	0.0	15.9	96.9	13.9	96.8	2.0	1.1	76.4	86.2
5	16.7	101.7	0.4	14.4	92.2	12.2	91.7	2.2	2.7	78.7	88.1
6	14.7	103.5	0.6	15.7	91.5	13.5	94.2	2.2	-0.4	78.7	91.0
7	13.5	93.7	0.4	15.9	90.0	13.6	89.3	2.3	-1.9	76.8	92.2
8	13.4	86.8	0.7	15.7	92.3	13.5	94.2	2.2	-1.7	75.1	91.9
9	10.5	88.3	0.0	16.0	99.1	13.7	102.7	2.3	-5.6	69.4	89.8
10	12.2	88.9	1.2	15.9	98.9	13.5	99.0	2.4	-2.5	66.9	89.3
11	12.5	85.1	0.0	16.3	108.1	13.3	101.8	3.0	-3.7	63.2	84.6
12	17.3	91.1	0.0	16.1	99.2	12.8	90.7	3.4	1.1	64.3	83.2
1	17.4	94.2	0.0	13.3	92.3	11.3	90.4	2.0	4.1	68.8	―
2	14.4	91.4	0.0	14.1	90.6	11.5	95.0	2.6	0.4	69.2	―
3	17.3	93.1	0.0	18.2	72.8	13.7	88.9	4.5	-0.8	68.3	―
19.4	17.0	99.7	0.0	16.5	103.5	14.0	100.7	2.5	0.5	68.9	―
5	16.0	96.0	0.0	15.8	109.6	13.3	108.9	2.5	0.2	69.1	―
6	14.0	95.0	0.0	17.7	113.1	15.0	110.9	2.8	-3.7	65.3	―
7	13.5	99.6	0.0	19.1	120.3	14.5	107.1	4.5	-5.6	59.7	―

注１）うち在庫対策実施量は、計画生産上実施する特別対策数量に係る消費量。
注２）推定期末在庫量は、18年12月分以前は農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ。
19年１月分以降は牛乳乳製品統計（調査対象が拡大しているため、18年12月の数値とは接続しない）。

（2）バターの需給動向

単位：千ｔ、％

	生産量		輸入売渡し	消費量		うち、通常消費量		うち、在庫対策実施量	過不足	在庫量 民間在庫量	
		前年比			前年比		前年比				前年比
13年度	83.2	104.1	0.0	90.8	109.4	90.8	109.4	0.0	-7.6	27.5	78.4
14年度	79.6	95.7	6.3	86.7	95.5	86.7	95.5	0.0	-0.8	23.7	86.2
15年度	81.6	102.5	10.5	89.0	102.7	89.0	102.7	0.0	3.0	26.8	112.8
16年度	80.6	98.8	7.8	89.3	100.3	89.3	100.3	0.0	-1.0	25.8	96.4
17年度	85.5	106.1	4.4	84.6	94.8	84.6	94.8	0.0	5.3	31.0	120.2
18年度	78.0	91.3	3.4	89.6	105.9	89.5	105.8	0.1	-8.1	22.9	73.8
17.7	6.4	107.5	0.2	6.6	91.3	6.6	91.3	0.0	-0.1	29.6	101.9
8	7.2	110.5	0.4	6.6	93.0	6.6	93.0	0.0	0.9	30.5	105.6
9	5.0	105.9	2.3	6.7	95.9	6.7	95.9	0.0	0.6	31.1	116.7
10	5.9	106.8	0.0	7.1	97.2	7.1	97.2	0.0	-1.2	29.9	120.2
11	6.1	113.8	0.9	8.1	104.4	8.1	104.4	0.0	-1.2	28.7	128.1
12	7.6	115.0	0.0	9.9	103.8	9.9	103.8	0.0	-2.2	26.5	118.8
1	8.8	110.9	0.0	5.5	102.4	5.5	102.4	0.0	3.2	29.7	119.9
2	7.5	109.1	0.1	6.8	89.5	6.8	89.5	0.0	0.8	30.5	118.6
3	8.5	99.0	0.7	8.6	98.0	8.6	98.0	0.0	0.5	31.0	120.2
18.4	8.0	97.8	0.0	7.5	113.2	7.5	113.2	0.0	0.5	31.5	115.5
5	8.0	104.4	0.2	7.1	124.1	7.1	124.1	0.0	1.2	32.7	111.5
6	6.7	99.4	0.0	7.1	111.5	7.1	111.5	0.0	-0.3	32.4	108.9
7	6.0	95.1	0.0	6.7	101.0	6.7	100.9	0.0	-0.6	31.8	107.2
8	6.0	84.3	0.2	6.8	102.1	6.8	101.9	0.0	-0.5	31.3	102.4
9	4.2	83.9	0.6	6.9	104.2	6.9	104.1	0.0	-2.2	29.1	93.5
10	5.1	87.2	0.2	7.8	108.9	7.8	108.9	0.0	-2.4	26.7	89.2
11	5.1	82.8	0.1	8.5	103.8	8.4	103.7	0.0	-3.3	23.3	81.3
12	6.6	86.0	0.8	9.8	99.2	9.8	99.2	0.0	-2.4	20.9	79.1
1	8.0	91.3	0.5	5.6	101.3	5.6	101.1	0.0	2.9	23.9	―
2	6.4	86.1	0.3	7.2	105.9	7.2	105.8	0.0	-0.5	23.4	―
3	7.8	92.0	0.5	8.7	101.7	8.7	101.6	0.0	-0.5	22.9	―
19.4	7.7	96.0	0.3	8.0	107.0	8.0	107.0	0.0	-0.1	22.8	―
5	7.4	91.4	0.3	7.3	102.9	7.2	102.7	0.0	0.4	23.2	―
6	6.3	93.4	1.1	7.1	100.2	7.1	100.0	0.0	0.3	23.5	―
7	5.9	97.5	1.0	7.5	112.5	7.3	110.3	0.2	-0.7	22.8	―

注１）うち在庫対策実施量は、計画生産上実施する特別対策数量に係る消費量。
注２）推定期末在庫量は、18年12月分以前は農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ。
　　19年１月分以降は牛乳乳製品統計（調査対象が拡大しているため、18年12月の数値とは接続しない）。

参考（品目別バター在庫量）								
合　計		業務用				家庭用	
		バラ		その他			
	前年比		前年比		前年比		前年比
25.3	―	15.4	―	8.4	―	1.5	―
21.9	86.5	16.3	105.6	4.1	48.4	1.6	104.0
24.9	113.6	18.9	116.3	4.8	117.8	1.2	75.5
24.2	97.3	17.6	93.1	5.5	114.6	1.1	95.1
29.3	121.2	22.3	127.0	5.8	104.9	1.3	110.2
21.3	72.7	16.2	72.5	4.1	71.7	1.0	81.4
27.7	101.9	20.2	101.1	6.0	104.4	1.4	102.1
28.7	106.3	20.6	109.7	6.4	97.6	1.7	101.4
29.3	117.9	21.7	125.9	5.9	98.0	1.7	106.7
28.2	121.8	20.7	133.0	5.7	100.7	1.7	92.3
27.2	130.3	20.0	145.4	5.3	104.3	1.9	92.1
25.1	120.8	19.8	126.4	4.2	105.1	1.1	98.5
28.1	120.6	20.6	126.7	5.5	101.3	2.0	123.7
28.8	118.4	21.2	121.6	5.9	107.3	1.6	124.2
29.3	121.2	22.3	127.0	5.8	104.9	1.3	110.2
29.7	116.4	22.9	118.0	5.5	113.6	1.3	103.5
30.8	112.6	23.6	114.0	5.7	108.1	1.5	108.2
30.5	109.9	23.3	111.2	6.0	107.7	1.2	97.9
30.1	108.7	22.4	110.9	6.4	105.2	1.4	93.8
29.7	103.5	21.6	104.7	6.5	102.0	1.6	95.1
27.6	94.2	20.3	93.5	5.9	99.6	1.5	84.3
25.3	89.7	18.5	89.5	5.3	92.8	1.4	81.9
22.1	81.4	16.2	81.0	4.6	87.4	1.3	69.1
20.0	79.6	15.8	80.1	3.2	77.2	0.9	80.5
22.5	80.3	16.8	81.3	4.2	76.2	1.6	80.4
22.0	76.4	16.4	77.5	4.4	73.7	1.2	73.0
21.3	72.7	16.2	72.5	4.1	71.7	1.0	81.4
21.2	71.2	16.0	69.9	4.0	73.5	1.1	83.9
21.4	69.5	15.6	66.1	4.6	81.0	1.2	80.2
21.7	71.0	15.4	66.1	5.2	85.9	1.1	92.3

資料：農畜産業振興機構、日本乳業協会調べ。
注１）国内乳業メーカー等14者計。
注２）数値は月末在庫量。
注３）業務用のその他は、プリント、シート、ポーション等。
注４）家庭用は贈答用含む。

9. 主要乳製品の価格動向（農水省生産局）

単位：円、%

区 分	バター（原料もの）		脱脂粉乳		全脂加糖練乳		脱脂加糖練乳		全粉乳	
	価格（1Kg）	過去３年平均対比	価格（25Kg）	過去３年平均対比	価格（24.5Kg）	過去３年平均対比	価格（25.5Kg）	過去３年平均対比	価格（25Kg）	過去３年平均対比
13年度平均	946	—	13,634	—	8,736	—	8,058	—	19,502	—
14年度平均	951	—	13,595	—	8,679	—	8,072	—	19,515	—
15年度平均	960	—	13,529	—	8,679	—	8,072	—	19,493	—
16年度平均	952	—	13,330	—	8,592	—	7,945	—	19,464	—
17年度平均	948	—	13,157	—	8,510	—	7,852	—	19,431	—
18年度平均	945	—	13,017	—	8,582	—	7,913	—	19,398	—
17.8	948	99.7	13,197	98.8	8,519	98.9	7,848	98.1	19,445	99.9
9	948	99.8	13,189	98.8	8,504	98.7	7,854	98.5	19,420	99.8
10	947	99.8	13,173	99.1	8,504	98.7	7,854	98.5	19,416	99.7
11	948	99.7	13,078	98.4	8,504	100.0	7,854	100.1	19,416	99.8
12	947	99.6	13,090	98.6	8,504	100.0	7,854	100.0	19,416	99.8
1	947	99.6	13,076	98.5	8,504	99.8	7,848	99.9	19,429	99.9
2	947		13,071		8,503		7,848		19,416	
3	947		13,062		8,503		7,848		19,416	
18.4	947		13,062		8,504		7,854		19,416	
5	947		13,047		8,504		7,848		19,425	
6	948		13,005		8,504		7,852		19,380	
7	950		13,020		8,556		7,901		19,420	
8	943		13,013		8,609		7,951		19,390	
9	943		13,010		8,609		7,951		19,380	
10	943		13,002		8,609		7,951		19,395	
11	944		13,001		8,609		7,929		19,401	
12	944		13,007		8,615		7,929		19,392	
1	944		13,004		8,615		7,929		19,392	
2	944		13,019		8,615		7,929		19,390	
3	944		13,019		8,638		7,929		19,391	
19.4	944		13,019		8,638		7,929		19,392	
5	944		13,019		8,636		7,929		19,393	
6	945		13,041		8,640		7,929		19,393	
7	946		13,049		8,640		7,938		19,395	

注１）価格は大口需要者向け販売価格である。（家庭用バターについては製造業販売価格）
注２）過去３ヵ年平均対比は過去３ヵ年の大口需要者向け価格の移動平均（本会議推計）との対比。

10. 乳製品の輸入状況（平成19年7月）

区　分	生乳換算率	平成19年7月単月					CIF平均単価 円／kg	19年7月累計				CIF平均単価 円／kg
		輸入量（トン）	輸入金額（千円）	生乳換算（トン）	前月比（%）	前年比（%）	下段前年	輸入量（トン）	輸入金額（千円）	生乳換算（トン）	前年比（%）	下段前年
脱脂粉乳（学乳）	6.5	0	0	0	0.0	0.0	— 296.8	1,267	415,330	8,233	93.0	327.9 296.8
脱脂粉乳（飼料）	6.5	1,758	678,706	11,428	64.6	109.4	386.0 231.5	16,645	5,118,324	108,190	117.1	307.5 231.5
脱脂粉乳（その他）	6.5	163	53,555	1,062	36.3	11.9	327.9 285.5	1,455	512,153	9,456	41.4	352.1 285.5
全脂粉乳	9.1	8	46,806	71	252.4	86.1	6,037.9 2,668.3	39	156,183	358	103.5	3,970.3 2,668.3
全脂無糖練乳	3	300	91,222	899	0.0	247.8	304.3 279.1	647	195,884	1,940	96.4	302.9 279.1
全脂加糖練乳	2.79	0	0	0	0.0	0.0	— —	0	0	0	0.0	— —
バター	12.34	27	19,513	329	36.4	54.5	731.3 479.5	231	154,675	2,849	92.0	670.0 479.5
ナチュラルチーズ	12.65	15,579	6,938,779	197,080	80.2	98.0	445.4 396.8	122,443	50,697,921	1,548,902	113.1	414.1 396.8
プロセスチーズ	11.29	785	452,096	8,868	84.6	93.2	575.6 550.1	5,388	3,039,552	60,828	98.7	564.2 550.1
アイスクリーム	2.5	1,672	585,553	4,181	123.3	90.1	350.1 337.4	9,147	3,252,621	22,867	91.8	355.6 337.4
乳　糖	3.24	7,380	1,899,034	23,911	100.8	100.6	257.3 91.3	52,351	9,867,659	169,616	103.9	188.5 91.3
調製食用脂	10.54	1,827	601,549	19,254	123.7	107.9	329.3 299.7	13,020	4,052,035	137,232	100.8	311.2 299.7
調製食用脂（低乳脂肪）	4.52	1,048	292,960	4,739	154.7	151.9	279.4 256.0	6,511	1,757,862	29,431	93.9	270.0 256.0
粉乳調製品（ベーカリー製品用）	1.62	477	53,999	772	138.3	126.8	113.3 89.0	3,515	383,967	5,694	107.3	109.2 89.0
カゼイン	3.24	1,149	1,155,607	3,722	55.8	84.4	1,006.0 866.2	11,266	10,021,600	36,501	119.9	889.6 866.2
合　計		32,173	12,869,379	276,316	83.1	89.5		243,923	89,625,766	2,142,098	101.7	

作成：社団法人中央酪農会議
資料：「日本貿易統計」
注１）生乳換算率は、調製食用脂及びココア調製品の成分が一様でないこと、ならびに一応の前提のもとに本会議が推定し、固定化して使用している。
注２）対前年比は、生乳換算ベースで行っている。

11. 粗飼料の輸入状況（平成19年7月）

区分	平成19年7月単月				CIF平均単価 円/Kg 中段前月 下段前年	平成19年7月累計			CIF平均単価 円/Kg 中段前年同期
	輸入量（トン）	輸入金額（千円）	前月比（%）	前年比（%）		輸入量（トン）	輸入金額（千円）	前年比（%）	
アルファルファ ヘイ・キューブ （1214.90-010）	23,376	702,974	102.8	91.9	30.1 29.7 27.1	182,214	5,323,175	90.8	29.2 27.0
アルファルファ ヘイ・ペレット （1214.10-000）	18,738	555,751	135.6	98.5	29.7 30.9 26.0	105,703	3,091,093	102.9	29.2 25.9
ビートパルプ・ペレット （2303.20-000）	44,654	1,069,518	138.5	179.7	24.0 24.4 23.4	260,890	6,298,151	101.5	24.1 22.6
稲わら （1213.00-000）	17,798	608,589	101.9	131.2	34.2 33.5 28.7	131,575	4,251,106	118.7	32.3 29.4
その他牧草 （1214.90-090）	167,633	6,071,315	94.1	99.3	36.2 35.5 31.3	1,323,060	45,422,245	94.6	34.3 30.8
ふすま （2302.30-000）	15,875	317,858	823.0	129.0	20.0 20.9 16.0	47,039	924,654	89.6	19.7 16.1
糖蜜など （2302.40-000）	0	0	0.0	0.0	— — 13.2	0	0	0.0	— 12.6

資料：日本貿易統計

12. 家計消費の動向（全国・1人当たり）

暦年・月	牛乳				ヨーグルト		粉ミルク				バター				チーズ			
	金額		数量		金額		金額		数量		金額		数量		金額		数量	
	(円)	前年比%	(200cc,本)	前年比%	(円)	前年比%	(円)	前年比%	(g)	前年比%	(円)	前年比%	(g)	前年比%	(円)	前年比%	(g)	前年比%
13年	6,324	95.1	156.5	95.1	2,404	96.5	391.6	91.6	213.6	90.3	215.2	96.3	158.8	97.6	956.9	95.1	695.7	99.2
14年	6,390	101.0	159.0	101.6	2,707	112.6	344.8	88.0	188.7	88.3	219.7	102.1	158.8	100.0	998.1	104.3	707.8	101.7
15年	6,402	100.2	161.1	101.3	2,517	93.0	352.2	102.1	185.4	98.3	211.5	96.3	152.5	96.0	952.5	95.4	699.4	98.8
16年	6,241	97.5	158.0	98.1	2,507	99.6	323.9	92.0	176.4	95.1	216.8	102.5	157.3	103.1	933.1	98.0	710.2	101.5
17年	5,926	94.9	153.4	97.1	2,543	101.4	329.7	101.8	190.9	108.2	210.8	97.2	153.0	97.3	970.0	104.0	725.8	102.2
18年	5,617	94.8	148	96.2	2,527	99.4	314	95.1	181.1	94.9	217.9	103.4	158.4	103.5	997.0	102.8	731.3	100.8
17年8月	545	98.9	14.4	98.3	215.5	101.8	28.4	93.4	16.4	100.6	13.9	85.1	9.8	84.3	72.6	98.6	55.8	104.2
9月	536	99.4	13.7	98.0	210.7	101.7	25.2	91.2	13.6	93.8	15.5	84.7	11.4	80.3	76.3	92.0	59.0	104.2
10月	511	93.7	13.2	97.9	211.7	100.3	24.0	95.3	12.3	86.9	18.9	94.0	13.9	105.1	85.5	116.2	63.7	104.5
11月	476	96.8	12.2	98.0	197.8	103.8	23.7	88.5	13.2	72.6	19.2	100.3	14.2	98.1	83.3	108.1	61.2	91.4
12月	495	96.2	12.8	111.4	195.3	97.0	28.7	90.4	17.0	117.8	25.2	108.4	18.0	105.9	99.7	105.3	72.2	101.2
1月	428	97.7	11.0	83.3	198.4	108.0	26.3	104.4	15.8	132.4	14.9	98.5	10.4	97.7	77.2	103.2	59.8	106.9
2月	432	99.9	11.3	100.2	193.7	84.6	24.1	83.1	13.6	69.8	18.7	92.8	13.6	90.2	77.2	102.7	57.3	95.4
3月	465	98.8	12.2	103.2	214.9	107.1	28.8	81.8	16.1	100.6	19.3	115.8	14.2	116.1	85.1	105.3	63.6	106.5
18年4月	462	95.4	12.1	96.5	219.6	95.9	24.7	74.8	13.9	70.3	17.1	104.5	13.0	103.1	83.2	107.2	59.5	100.1
5月	485	96.0	12.6	97.4	227.2	98.5	26.6	98.0	15.8	94.6	18.7	107.6	13.9	113.2	82.6	100.3	65.2	103.3
6月	497	97.0	12.7	99.0	220.6	98.0	24.4	73.8	14.6	79.8	17.1	100.6	12.3	98.1	81.6	104.3	57.3	102.3
7月	515	95.7	13.7	96.9	218.7	99.3	28.2	102.6	16.8	93.3	16.1	111.2	12.0	119.1	75.0	100.3	53.8	98.6
8月	519	95.1	13.7	95.4	216.1	100.3	22.5	79.1	10.8	65.6	15.8	114.0	10.8	110.0	77.2	106.4	53.8	96.3
9月	499	93.1	12.8	93.4	214.9	102.0	25.9	102.8	14.2	105.0	19.0	122.8	14.6	128.2	82.3	107.8	62.0	105.1
10月	486	95.1	12.8	96.6	226.6	107.0	31.6	132.0	17.7	144.0	20.9	110.3	15.8	114.0	83.5	97.7	63.9	100.3
11月	438	92.1	11.3	92.7	200.0	101.1	28.5	120.4	19.0	143.3	19.3	100.3	13.6	95.9	86.7	104.1	63.6	103.9
12月	470	94.9	12.9	100.8	196.8	100.8	29.2	101.7	16.2	95.0	21.0	83.0	16.2	90.0	105.4	105.7	77.1	106.8
1月	412	96.4	10.9	99.6	191.7	96.6	23.5	89.4	13.7	86.3	15.9	106.7	11.1	106.4	81.3	105.3	55.2	92.4
2月	408	94.6	10.8	96.0	196.2	101.3	22.2	92.4	12.7	93.3	22.2	119.0	14.6	107.3	81.0	104.8	60.0	104.8
3月	428	91.9	11.0	90.4	198.4	92.3	26.3	100.0	15.8	100.0	14.9	77.0	10.4	73.3	77.2	90.7	59.8	94.0
19年4月	443	95.9	12.3	101.4	213.0	97.0	24.8	100.3	13.3	95.8	17.1	100.3	13.3	102.8	88.3	106.0	67.3	113.1
5月	468	96.5	12.2	96.8	219.0	96.4	19.7	74.0	12.1	76.2	17.8	95.2	12.7	91.2	87.3	105.7	65.4	100.3
6月	465	93.7	12.3	96.5	221.0	100.2	21.6	88.6	12.7	87.2	18.7	109.6	13.0	105.5	86.3	105.8	63.2	110.3
7月	483	94.0	12.9	93.7	220.3	100.8	20.3	72.1	11.1	66.2	17.1	106.2	11.7	97.7	83.2	110.9	61.6	114.5

参　考

暦年・月	牛肉				米（うるち米）				生鮮野菜				マーガリン				消費支出		食料費	
	金額		数量		金額		数量		金額		数量		金額		数量		総額		金額	
	(円)	前年比%	(g)	前年比%	(円)	前年比%	(kg)	前年比%	(円)	前年比%	(g)	前年比%	(円)	前年比%	(g)	前年比%	(円)	前年比%	(円)	前年比%
13年	6,924	86.4	2,667	86.0	11,883	94.4	30.2	98.3	20,629	98.0	56,530	96.6	274.3	93.0	505.8	96.4	1,145,956	98.1	290,717	98.9
14年	6,220	89.8	2,391	89.6	11,517	96.9	29.5	97.9	20,423	99.0	57,284	101.3	262.0	95.5	475.9	94.1	1,141,328	99.6	291,974	100.4
15年	6,639	106.7	2,445	102.3	11,576	100.5	29.2	98.9	20,296	99.4	54,340	94.9	262.4	100.1	474.8	99.8	1,124,913	98.6	285,658	97.8
16年	6,579	99.1	2,233	91.3	11,526	99.6	26.4	90.4	20,090	99.0	54,617	100.5	254.4	96.9	472.1	99.4	1,137,943	101.2	286,238	100.2
17年	6,672	101.4	2,244	100.5	10,189	88.4	28.0	106.0	19,891	99.0	55,672	101.9	241.1	94.8	448.7	95.0	1,132,732	99.5	283,288	99.0
18年	6,612	99.1	2,192	97.7	9,787	96.1	26.9	95.9	19,967	100.4	55,176	99.1	240.8	99.9	437.5	97.5	1,122,979	99.1	283,971	100.2
17年8月	591	98.8	201	97.9	810	86.0	2.12	98.4	1,551	94.3	4,423	99.9	17.7	89.4	31.9	92.4	95,332	101.0	25,124	98.9
9月	509	99.8	176	93.6	1,037	90.8	2.97	105.9	1,668	94.2	4,746	98.7	19.2	88.7	35.3	91.3	90,898	97.3	22,738	99.8
10月	525	96.2	195	111.7	1,286	94.5	3.74	130.0	1,718	89.5	5,254	111.3	20.5	91.8	39.1	93.5	94,683	105.7	23,528	98.9
11月	518	100.0	184	100.0	870	100.0	2.50	100.0	1,522	100.0	4,758	100.0	19.6	100.0	36.9	100.0	89,465	100.0	22,452	100.0
12月	883	107.3	245	106.2	966	97.8	2.71	109.3	1,781	118.9	5,039	106.8	21.1	97.4	38.8	94.9	109,149	100.4	30,436	99.0
1月	538	97.0	176	97.5	592	94.6	1.58	101.2	1,552	86.1	3,881	99.4	17.7	89.5	32.0	88.4	93,233	98.1	21,531	97.1
2月	478	98.5	163	96.9	654	85.8	1.72	88.4	1,559	99.5	4,131	101.5	19.6	94.5	38.0	98.2	85,259	84.9	20,561	98.3
3月	510	95.8	171	92.7	779	95.7	2.18	103.5	1,634	94.5	4,553	102.2	20.9	96.3	40.2	98.3	99,161	115.8	23,075	100.3
18年4月	520	98.0	173	96.6	757	91.5	2.04	92.1	1,743	100.1	4,508	97.8	21.5	99.2	38.3	95.9	99,010	99.1	22,545	99.8
5月	534	92.0	180	88.5	760	98.8	2.10	98.0	1,832	99.0	5,026	101.7	20.6	94.5	38.6	96.4	92,441	99.1	23,697	98.3
6月	495	100.5	182	103.9	750	92.8	1.99	99.1	1,860	107.4	4,759	94.7	20.3	97.6	36.7	92.6	88,868	99.5	22,531	99.8
7月	516	100.0	182	104.3	754	95.7	1.99	93.6	1,664	105.3	4,275	99.1	19.3	94.1	33.2	90.0	92,509	99.5	24,156	98.3
8月	593	100.3	191	95.1	722	89.2	1.92	90.6	1,741	112.2	3,930	88.8	18.7	105.7	32.0	100.3	92,433	97.0	25,144	100.1
9月	490	96.2	167	94.9	988	95.3	2.83	95.0	1,763	105.7	4,663	98.2	19.6	102.0	37.0	104.8	86,454	95.1	22,454	98.8
10月	517	98.4	181	92.9	1,305	101.5	3.84	102.5	1,769	102.9	5,147	98.0	20.3	98.8	38.3	97.9	93,257	98.5	23,249	98.8
11月	503	97.0	174	95.0	833	95.7	2.28	91.2	1,458	95.8	4,834	101.6	19.9	101.9	36.7	99.5	89,513	100.1	22,645	100.9
12月	862	97.6	237	96.6	907	93.9	2.48	91.3	1,665	93.5	5,159	102.4	20.0	94.6	36.2	93.3	108,241	99.2	30,609	100.6
1月	556	103.3	183	104.3	580	97.9	1.57	99.1	1,455	93.8	4,068	104.8	18.1	102.1	31.4	98.3	94,118	100.9	22,396	104.0
2月	489	102.2	160	98.0	680	103.9	1.82	105.5	1,416	90.8	4,189	101.4	21.3	108.4	39.4	103.7	86,591	101.6	20,979	102.0
3月	538	105.5	181	105.5	751	96.3	2.03	92.9	1,602	98.0	4,619	101.5	21.3	101.8	39.7	98.7	99,544	100.4	23,566	102.1
19年4月	523	100.6	191	110.6	758	100.1	2.02	98.9	1,750	100.4	4,803	106.5	21.3	98.8	40.6	106.1	100,369	101.4	22,832	101.3
5月	541	101.4	189	104.5	746	98.1	2.00	95.5	1,850	101.0	5,109	101.7	21.6	104.9	40.6	105.3	93,089	100.7	23,837	100.6
6月	500	101.1	173	95.1	728	97.1	1.98	99.8	1,774	95.3	4,928	103.6	20.0	98.8	35.9	97.7	89,075	100.2	22,930	101.8
7月	528	102.2	178	98.0	739	98.0	2.01	101.1	1,659	99.7	4,380	102.4	19.0	98.7	32.7	98.4	92,582	100.1	23,925	99.0

資料：総務省「家計調査月報」

DATA

[消費拡大データ]

「牛乳の飲用実態／意識」に関する調査 vol.2

前号に引き続き、調査結果をご紹介いたします。
今回は、「牛乳のイメージ」をテーマにまとめました。

3．ポストモダン手法による牛乳深層心理の探索調査

サンプル数（単位：人）

飲用頻度区分	中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子
ヘビー層	3	3	3	3
ミドル層	3	3	3	3
ライト層	3	3	3	3
ノン層	3	3	3	3

※ヘビー層：週5回以上飲用　※ライト層：2～3回以下／月飲用
※ミドル層：1～4回／週飲用　※ノン層：全く飲用なし

調査地域：1都3県（東京・神奈川・千葉・埼玉）
調査対象：上記地区に住む中高生48名とその母親48名
実施期間：2007年3月
調査手法：投影法・コラージュ法・描画法
分析専門家：早稲田大学教育総合科学学術院　若林幹夫教授
調査実施機関：㈱電通／㈱電通リサーチ

※SA：単数回答　MA：複数回答

《「牛乳の好きな人」についての人物イメージ》

1．年代・人のイメージ

元気いっぱい、遊び盛りの子供
- ●小学生の子、大きい子
- ●子供に牛乳が合う

10代の成長期
- ●育ちざかりの10代
- ・小さい頃から牛乳を

若い人
- ●若い人
- ・若い、肉体派、さわやか、清潔感
- ・若くてエネルギッシュ

スポーツ青年、運動している人
- ●スポーツマン
- ●スポーツ好きな人（年代問わず）
- ●運動好きな人
- ●さわやかな人
- ・アクティブな人

健康志向が強い、健康オタク
- ●健康そうな人、前向きな人
- ●健康に気を使っている人
- ●健康な人、スポーツマン
- ●元気はつらつ（年代問わず）
- ・健康オタク、年配者
- ・食べ物に好き嫌いを言わない人
- ・工場で汗をかいて働く従業員が、一気飲みをする感じが浮かぶ
- ・スマートな人、太っていない健康的な人

2.体格イメージ

骨が丈夫な、体格の良い人
- ●骨太な人
- ●骨が丈夫で元気な人
- ●身長が高い人
- ●体格のいい人

太っている人
- ●太っている人
- ・太っている子供

イライラしている人、カルシウム不足
- ・イライラしている人
- ・カルシウム不足な人

3．性格イメージ

真面目な人
- ●食べ物に好き嫌いを言わない人
- ●真面目で几帳面な人
- ●温和で温厚な人
- ●規則正しい人
- ・素直な性格
- ・素朴な子供
- ・素朴な印象

●印は集中している意見　・印は複数意見

早稲田大学・若林教授による牛乳深層心理の探索調査結果分析から

今回描かれた作品を見てみると、現実とは必ずしも一致していない理想的、規範的なイメージにおける牛乳像を、「私にとっての牛乳」として作品化したものが思いのほか多いことがわかる。L層やN層で、牛乳を肯定的に捉える内容の作品がかなりあるのだ。それは、「私は嫌いだけど、牛乳は本当はいいものである」→「だから私もそうした牛乳の良さは分かっている」（→「でも現実には好きではないし、飲んでもいない」）ということだ。ここでもまた、牛乳という飲み物の規範性が見て取れる。「いいもの」、「飲むべきもの」ということが、この社会での牛乳のイメージを基底から支えているかのようだ。（中略）
今回のコラージュでも、牛乳を健康、成長、スポーツと結びつける作品が多く見られる。
その中には、実際にスポーツをやっていてそのために役に立つので牛乳を飲んでいるという被調査者によるものも、そうではないN層やL層の回答者によるものもある。「背が伸びる」「骨が丈夫になる」「イライラしなくなる」などの牛乳の“効用”を描いたものもある。（ただし、こうした効用も多分にイメージ的なものであることにも注意が必要である。ここにも牛乳の「優等生的な規範性」が現れている。）

◎ノンユーザーを含む、生活者の多くにとって、牛乳は「健康的なよい飲み物」である。

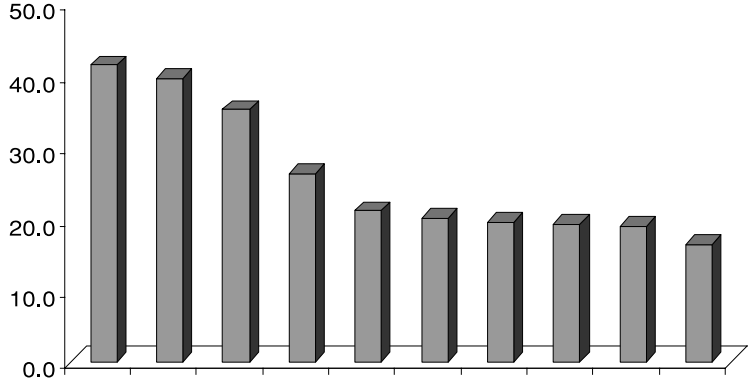
【牛乳のよいイメージ（MA）】

全体よりも10pt以上高い数値
全体よりも10pt以上低い数値

		サンプル数	1 健康的な (%)	2 自然な (%)	3 元気のでる (%)	4 安全な (%)	5 価格が安い (%)	6 透明な (%)	7 大人っぽい (%)	8 おしゃれな (%)	9 その他 (%)
全体		1,750	92.5	53.4	41.4	29.3	22.5	1.0	0.7	0.4	2.4
性＊年齢別	男子中高生（計）	250	90.8	46.0	34.8	24.8	12.8	1.2	0.8	0.4	2.0
	男子中学生	125	91.2	43.2	36.0	23.2	12.8	2.4	0.0	0.0	0.8
	男子高校生	125	90.4	48.8	33.6	26.4	12.8	0.0	1.6	0.8	3.2
	男性19歳～29歳	125	91.2	54.4	44.8	15.2	16.0	1.6	0.8	0.8	2.4
	男性30代	125	91.2	59.2	26.4	16.0	8.8	1.6	0.0	0.0	3.2
	男性40代	125	92.0	60.0	38.4	25.6	28.0	0.8	0.8	0.8	1.6
	男性50代	125	96.0	59.2	36.8	28.8	24.8	0.8	0.8	0.0	3.2
	男性60代	125	92.0	61.6	43.2	48.8	48.8	1.6	3.2	0.8	4.8
	女子中高生（計）	250	90.4	48.0	39.6	29.2	13.6	0.8	0.4	0.4	1.2
	女子中学生	125	89.6	42.4	36.0	23.2	15.2	0.8	0.8	0.0	0.0
	女子高校生	125	91.2	53.6	43.2	35.2	12.0	0.8	0.0	0.8	2.4
	女性19歳～29歳	125	95.2	48.8	37.6	22.4	16.0	0.8	0.0	0.0	3.2
	女性30代	125	96.0	52.8	57.6	36.0	21.6	0.0	0.0	0.0	0.8
	女性40代	125	92.8	59.2	53.6	34.4	25.6	0.0	0.0	0.0	6.4
	女性50代	125	94.4	48.8	43.2	38.4	36.0	0.8	0.0	0.8	0.8
	女性60代	125	92.0	56.0	48.8	36.0	36.8	1.6	1.6	0.8	0.8
牛乳の飲用頻度別	ヘビーユーザー（H）	913	95.3	57.4	47.4	36.0	26.0	1.5	0.7	0.7	0.8
	ミドルユーザー（M）	419	93.3	54.9	43.2	28.4	22.9	0.7	0.2	0.2	1.4
	ライトユーザー（L）	199	89.9	45.7	29.6	18.6	13.1	0.0	1.0	0.0	4.5
	ノンユーザー（N）	219	81.7	41.1	23.3	12.3	16.0	0.0	1.4	0.0	9.1

◎牛乳には「規則正しい生活を送っている」、「スポーツ万能な体力派」、「スポーツのできる人気者」といった人格イメージがある。

中高生の牛乳の擬人化イメージ（30位中上位10位・SA）



サンプル数	規則正しい生活を送っているタイプ	スポーツ万能な体力派	スポーツのできる人気者	育ちがよさそうなタイプ	おっとりしたやさしいタイプ	にぎやかな笑わせタイプ	家族思いのタイプ	しっかりもののやさしいタイプ	勉強もスポーツもできるリーダータイプ	子供っぽい甘えん坊タイプ
500	41.4	39.6	35.2	26.2	21.0	20.0	19.4	19.2	19.0	16.4

◎「牛乳は太る」というイメージを女性全体で4割弱持っているものの、全体では、大きな阻害要因にはないっていない。

【「牛乳は何となく太りそう」に対する認識（SA）】

		サンプル数	思う (%)	思わない (%)
全体		1,750	25.8	52.7
性＊年齢別	男子中高生（計）	250	15.6	63.2
	男子中学生	125	14.4	59.2
	男子高校生	125	16.8	67.2
	男性19歳～29歳	125	25.6	56.0
	男性30代	125	16.0	66.4
	男性40代	125	12.0	60.0
	男性50代	125	16.0	58.4
	男性60代	125	11.2	63.2
	女子中高生（計）	250	36.0	46.4
	女子中学生	125	31.2	52.8
	女子高校生	125	40.8	40.0
	女性19歳～29歳	125	40.0	40.8
	女性30代	125	37.6	44.8
	女性40代	125	36.0	40.0
	女性50代	125	35.2	40.8
	女性60代	125	28.8	48.0
牛乳の飲用頻度別	ヘビーユーザー（H）	913	26.0	53.3
	ミドルユーザー（M）	419	28.2	51.3
	ライトユーザー（L）	199	26.6	52.3
	ノンユーザー（N）	219	20.1	53.0